

聖徒の道

2
1992



E0199

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1992年2月号



表紙——親は、「子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むことを教え」（教義と聖約68：28）の必要がある。（本文「祈りの方法」p.31、こどものページ「おいのり もう一度やっごらん」p.4参照）

こどものページ表紙——おいのりは天のお父さまとお話することです。今月ごうのこどものページには、おいのりの話がたくさんのっています。

一般

大管長会メッセージ——心の中の榮譽の殿堂	
第二副管長トーマス・S・モンソン	2
父とのきずな セルハ・M・アエンサ	8
壁の向こうで——旧東ドイツの教会	
ジャロルド・デービス、ノーマ・デービス	12
テレビの効果的な利用法 ジーニン・R・フレーク	22
「私たちはキリストのことを予言し」	
ブルース・A・バン・オーデン	26
聖典にテーマを求めて——第2回国際美術コンテスト	
グレン・M・レオナード	36

青少年

祈りの方法	31
永遠 リチャード・M・ロムニー	32
「私はモルモンです」 エセニア・メネセス・ファアヤ	44
ゲッターからの祈り デビー・パース	46

定期特別記事

読者からの便り	1
家庭訪問メッセージ	
キリストの純粋な愛——ひとつの生き方	25

こども

モルモン経物語——のがれるアルマのたみ	2
おいのり もう一度やっごらん H・パーク・ピーターソン	4
歌 けいけんは愛	5
アーニーもーしょに アグネス・ケンプトン	6
おもちゃばこ	8
分かち合いの時間——おいのりを教わったファン	
バージニア・パース	9
ベアーのために ビッキー・H・バッジ、マイク・バッジ	12
しじのあなに入れられたダニエル トリン・パクストン	14
ちいさなみんなのために——天のお父さまにお話ししましょう	
ジュリー・ウォーデル	16

聖徒の道

1992年2月号

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット

顧問：レックス・D・ピネガー、チャールズ・ディエイ、ジョン・H・グローバーク、ロバート・E・ウエルズ

編集長：レックス・D・ピネガー
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

国際機関誌

編集主幹：フライアン・K・ケリー
編集主幹補佐：マービン・K・ガードナー
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐／こどものページ：ティエーン・ウオーカー

チーフアートディレクター：M・マサト・カワサキ
アートディレクター：スコット・D・バン・カンペン
デザイナー：シェリー・タック
制作：レジナルド・J・クリステンセン、ステイブ・テイnton、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー

工程管理：ダイアナ・バンスタブレン
配送部長：ジョイス・ハンセン

聖徒の道 1992年2月号第36巻第2号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351
印刷所 株式会社 精興社/クロスロード
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約 1,100円(送料共)
普通号 150円、大会号 350円

International Magazine February
1992 ITEM 92982 300
Printed in Tokyo, Japan.
Copyright © 1992 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Translated into Japanese 1992.

●定期購読は、「聖徒の道」申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seito No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

読者からの便り

王国を強める

フランスの教会員たちが「レトワール」(フランス語版。「星」の意)の新しい装丁をどれほど感謝しているかお伝えしたいと思います。その変わり方はきわめて効果的で、皆大変喜んでいきます。様々な言語の国際機関誌を通して王国を強めることに貢献してください、ありがとうございます。

フランス

ボルドー伝道部伝道部長

ニール・L・アンダーセン

バラエティーに富んだ内容

「リアホナ」(ポルトガル語版)は感動的な機関誌であり、私たちは皆、読む記事によって心を高められます。表紙の写真は美しく、中の絵の選択も適切です。

できれば毎回大人のページか子供のページに、過去の予言者たちの写真を載せてくださるよう提案したいと思います。子供たちが予言者になじみ、どのように、またなぜ主に仕えるよう召されたのか知るでしょう。

世界中の神殿の写真も美しさを添えると思います。神殿のことなら何でも知りたいです。どのように建てられたか、建てたのはどのような人たちか、また、神殿の周り、特に庭はどのようなになっているか知りたいと思います。

さらに、タバナクル合唱団についても頻りに記事を書いていただければと思います。私は音楽がとても好きで、合唱団、特にタバナクル合唱団に魅力を感じています。タバナクル合唱団が「プログラム・フォー・アメリカ」に加わって南アメリカの貧しい子供たちに援助の手を伸べた際、1981年に私はここブラジルで合唱団の歌声に接する機会を得ました。私は音楽の賜

を通して教会で成長することができました。初期の開拓者たちが教会の美しい賛美歌を歌いながら心の中にたたえていた霊的な強さを私も感じるすることができます。最近もこの合唱団に関する記事が載せられたことや、大会特集号などに合唱団の写真が出ていることは知っていますが、それらは白黒写真だけですし、合唱団についてぜひもっと教えていただければ幸いです。

ブラジル

サンパウロ北ステーク部

ピラマリアワード部

テイラー・サムウェーズ

編集室から——近々、タバナクル合唱団が東欧とソビエトで行なった歴史的な演奏旅行についての特別記事を掲載する予定です。全世界の神殿についても特集が予定されています。

霊的な指導者

私は教会員として過ごしたほぼ30年間、職場への行き帰りにいつも「リアホナ」(スペイン語版)を読んできました。1991年1月号を読みながら、大会における教会幹部の話は現代の啓示であり、私たちはそれらを聖餐会で探り上げるべきであると、みたまが私に強くささやきかけるのを感じました。

アルゼンチンのマルデルプラタにおけるヘネラルサンマルティン支部の支部長として、私はみたまが示すままにこれらの総大会のメッセージを使うつもりです。リーハイが天幕の外で見つけた指向球「リアホナ」と、この機関誌の類似性に気づくようになりました。

アルゼンチン

マルデルプラタステーク部

ヘネラルサンマルティン支部

フィオリノ・ベルナルド



心の中の栄誉の殿堂

第二副管長
トーマス・S・モンソン

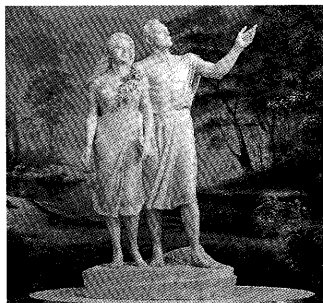
ある晴れた冬の日、私はニューヨークの中心街マンハッタンと、郊外の
あ ウェストチェスターを結ぶ高速道路を、友人を乗せて車を走らせてい
ました。その道すがら、彼はこの地域に散在する史跡をいくつか教えてくれ
ました。高速道路が史跡を結んで網の目のように張り巡らされていました。

突然、懐かしいヤンキースタジアムが目飛び込んできました。数多くの
名選手を輩出したスタジアムであり、私が少年時代にあこがれた英雄たちの
故郷です。何万人もの観客の声援を浴びながら、試合で華麗なプレーを見せ
てくれる野球選手にどれだけ多くの少年があこがれてきたことでしょうか。

冬だったので、球場を取り巻く駐車場は閑散としていました。観衆もピー
ナッツを売る人も、入場券を売る人も、だれもいません。しかし、ベーブ・
ルース、ルー・ゲーリック、ジョー・ディマジオなど、偉大な野球選手の思
い出は消えるものではありません。彼らは栄誉の野球殿堂入りを成し遂げ、
その卓越した活躍と技量の記録は永遠に保存されているのです。

人の生涯についても野球と同じことが言えます。私たちはそれぞれ、自分
の人生を方向づけてくれた真の指導者のために、心の中に自分だけの栄誉の
殿堂を持っています。幼年時代から現在に至るまで、私たちを導く権威を行

ナザレのイエス。この名は、
天が下にあって、私たちを救い得る
唯一の名であり、
私たちの栄誉の殿堂において
誉れある特別の位置を占めています。



主の戒めによく従ったアダムも
栄誉の殿堂入りをするに
ふさわしい人です。

使してきた男性や女性は大勢いますが、私たちの審査をパスして、栄誉ある名簿に名前を記されている人は比較的少ないものです。しかもこの審査は、権力を誇示する装飾品や、この世の富を度外視して行なわれます。私たちがよく考えたうえでこの自分だけの聖なる場所に入れる指導者は、通常、真理のために献身し、私たちの心を燃え立たせてくれた人々です。また、義務に忠実であることが私たち人間にとって不可欠な要素であると悟らせてくれ、ありきたりの日常に変化を与えて、あのような人物になりたいという気持ちを起こさせてくれる人です。

私たち一人一人は、栄誉の殿堂に入れる人々を審査する資格を持つ審査員となれます。では、あなたならこの名誉ある地位にだれを推薦するでしょうか。候補者は多く、競争は激烈なものですが、私なら次のような人々を推薦します。

まず、この地上に住んだ最初の人アダムを推薦したいと思います。モーセの書には、アダムについて次のように記されています。「アダムは主の誠命いましめによく従いぬ。」(モーセ5：5)アダムは殿堂入りするのに、まさにふさわしい人です。

辛抱強く忍耐する人としては、高潔で完全な人、ヨブを挙げなければなりません。彼はほかのだれも受けたことのないような苦しみを受けながらも、「わたしの証人は天にある。わたしのために保証してくれる者は高い所にある。わたしの友はわたしをあざける、しかしわたしの目は神に向かって涙を注ぐ。……わたしをあがなう者は生きておられる」(ヨブ16：19—20；19：25)と言明しています。ヨブもふさわしい人です。

クリスチャンなら皆、使徒パウロの名でよく知られている人、サウロを推薦するでしょう。彼の説教は霊のmanaのごときものであり、その奉仕の生涯はすべての人の模範です。この恐れを知らない宣教師は、世の人々に次のように宣言しています。「わたしは福音を恥はずかしいとしない。それは……すべて信じる者に、救を得させる神の力である。」(ローマ1：16)パウロもふさわしい人です。

次に、シモン・ペテロと呼ばれている人がいます。キリストについての彼の証には、心を打つものがあります。

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、『人々は人の子をだれと言

っているか。』彼らは言った、『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言ひ、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります。』そこでイエスは彼らに言われた、『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか。』シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです。』(マタイ16：13—16)ペテロもふさわしい人です。

また時と場所は異なりますが、ニーファイも次のような証をしています。

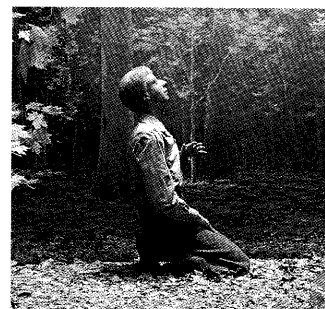
「私は主が命じたもうたことを行って行く。私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前もつ以てある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである。」(1ニーファイ3：7)確かに、ニーファイも栄誉の殿堂入りするにふさわしい人です。

推薦したい人はほかにもいます。予言者ジョセフ・スミスこそその人です。その信仰、信頼できる人柄、証は、やがて殉教することになるカーセージの獄へ向かったときに語った、彼自身の言葉の中とがにうかがえます。「われは、今ほふり場に引かるる子羊とがの如く行く。されど、わが心は夏の朝の如くに穏かなり。わが良心は神に対しまたすべての人に対しいささかの咎とがめもなし。」(教義と聖約135：4)彼は自らの血をもって自分の証を結び固めました。ジョセフ・スミスもまたふさわしい人です。

男性だけでなく、女性にも推薦したい人がいます。まず、気高い忠節の模範、ルツが挙げられます。立派なふたりの息子を失って悲しみに打ちひしがれているしゅうとめナオミの心を感じ取り、また彼女の絶望と孤独の苦しみを察して、ルツが述べた次の言葉は、忠節の典型と見なされてきました。「あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。」(ルツ1：16)ルツのとった行動は、その言葉が真実であることを表わしています。彼女の名前も栄誉の殿堂に入れるにふさわしいと思います。

誉れあるルツの子孫についてはどうでしょうか。つまりヨセフがめとったナザレのマリヤはどうでしょうか。

予言者ジョセフ・スミスは、
その信仰、信頼できる人柄、
証のゆえに
推薦されるべき人です。



彼女は、この世に生を受けた唯一完全なお方の母親となるように定められていた人でした。彼女がこの神聖な歴史的に意義のある務めを受けたときの言葉は、謙遜のひと言に尽きます。「そこでマリヤが言った、『わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように。』」(ルカ 1 : 38) 確かに、マリヤもふさわしい人です。

何がこれらの人々を偉人に行っているのでしょうか。それはほかならぬ、全能の天父に対する揺るぎない信頼と、神が遣わされた救い主の使命に関する確固たる証によるのです。この知識は、彼らの生涯という美しいタペストリーに織り込まれている金色の糸のようなものです。

これらの偉人が忠実に仕え、雄々しくその生命を捧げた、栄光の王とは、贖い主とはどなたでしょうか。このお方こそ、神の御子イエス・キリスト、私たちの救い主なのです。

主の降誕は予言者たちによって予言されていました。そしてみ使いたちは、主のこの世における使命を告げ知らせたのです。野にいる羊飼いたちに、次のように栄えある言葉が告げられました。

「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。きょうダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。このかたこそ主なるキリストである。」(ルカ 2 : 10, 11)

このイエスは、「ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みとその上にあ」りました。(ルカ 2 : 40) その後イエスは、ヨルダンの名で知られる川で、ヨハネからバプテスマを受け、人々に対する導きと恵みを施す業を正式に開始されました。さらにイエスは、サタンさたんの詭弁を退け、御父より託された務めを進んで受け入れ、全身全霊を傾け、またみずからの命をも捧げられたのです。イエスの生涯は、その罪のなさ、無私の心、崇高さ、神聖さにおいて、まことに比類なきものでした。イエスは働き、愛し、仕え、涙を流し、病める者を癒し、教え、証を述べられました。そして過酷な十字架にかかって死を遂げられたのです。その後、かりそめの墓からよみがえり、永遠の生命を得られました。

ナザレのイエス。この名は、天が下にあって、私たちを救い得る唯一の名(使徒 4 : 12参照)であり、私たちの栄誉の殿堂において誉れある特別の位置を占めています。

「しかし、このような偉大な人々の名を連れ、栄誉の殿堂を設けたところで、一体それにどんな価値があるのだろうか」と思う人がいるかもしれません。私はこう考えています。アダムのように従順で、ヨブのように忍耐し、パウロのように教え、ペテロのように証を述べ、また、ニーファイのように仕え、予言者ジョセフのように自分自身を捧げ、ルツのように人を思いやり、マリヤのように誉れある務めを引き受け、そしてキリストのように生涯を送るならば、私たちは新たに生まれることができます。そしてすべての力が授けられます。古い自分を永遠に脱ぎ捨て、それとともに挫折や失望、疑念、不信といった思いも消し去るのです。そうすれば、新しい人生、すなわち信仰と希望、勇気、喜びの人生へと至ることができます。また、なすべき務めを大きすぎると感じたり、責任を重すぎると感じたりすることもなくなります。いかなる義務も重荷とはならず、すべてが可能となるのです。

しかし、必ずしも過ぎ去った時代や、はるか昔の人々に模範を求める必要はありません。その良い例としてクレイグ・サドバリー兄弟を紹介しましょう。彼は今、ソルトレークシティでは著名人のひとりですが、ここで、彼がオーストラリアのメルボルン伝道部に赴任する前、母親と共に私の事務所に来た何年も前のその日に時間を戻してみましよう。クレイグの父、フレッド・サドバリーはまったく教会に関心がありませんでした。当時結婚してすでに25年たっていましたが、彼は、末日聖徒イエス・キリスト教会を愛する妻の気持ちを理解せず、もちろん教会に入ることもありませんでした。

クレイグは私に、両親を深く愛していることを告げました。そして何らかの方法で、父親がみたまに動かされ、イエス・キリストの福音に心を開いてほしいと強く願っていました。それで私に助けを求めてきたのでした。私はこの望みがどのようにしたらかなえられるか、靈感を受けられるよう祈りました。そして、導かれるままにクレイグにこう言いました。「心を尽くして主に仕え、託された神の召しに従ってください。また、毎週両親に手紙を書き、ときどきはお父さんに個人的に出してください。そして、あなたがお父さんを愛しており、息子であることをなぜ感謝しているかについて書いてくださ

オーストラリアの地で、
腰まで水につかって父親と共に立ち、
右手を直角に上げて、
バプテスマの聖なる儀式の言葉を宣言したときの
クレイグに勝る偉人がほかにいたでしょうか。

い。」

彼は私に礼を言うと、母親と一緒に事務所を後にしました。それから1年半ほどして、母親がまた私の事務所を訪れ、涙ながらに、次のように話してくれました。「クレイグが伝道に出てから間もなく2年になります。息子は忠実に働いて、伝道地で大切な責任を果たしています。そして、毎週欠かさず私たちに手紙を書いてくれます。最近のことですが、主人のフレッドが初めて証会でこんな証をしたのです。『皆さんご存じのように、私は教会員ではありません。けれども、クレイグが伝道に出てから、私の心に何かが起こりました。息子の手紙はいつも私の心を打ちました。その1通を読ませていただきたいと思います。『お父さん、きょう私たちはすばらしい家族に、救いの計画と、日の光栄の王国での昇栄の祝福について教えました。そこで自分の家族についても考えてみました。この世の何よりも、私はその王国でお父さん、お母さんと一緒に暮らしたいと思います。もしお父さんが一緒になければ、そこは私にとって日の光栄の王国ではありません。私はお父さんの息子であることを感謝しています。私がお父さんを愛していることを伝えたいと思います。——宣教師である、あなたの息子クレイグより』」

それから主人はこう続けました。『これから言おうとしていることは、妻もまだ知りません。私は妻を愛していますし、息子のクレイグも愛しています。結婚して26年になりますが、やっと教会員になる決心がつかしました。福音のメッセージは神のみ言葉であることを知っているからです。随分前からこの真理を知っていたように思います。しかし、私の重い腰を上げさせたのは息子の伝道です。私はクレイグが伝道を終えるときに夫婦で会いに行けるよう、準備をしてきました。そして、主から召された専任宣教師である息子から、最後にバプテスマを受けるのは、私でありたいと思っています。』」

揺るぎない信仰を持ったひとりの年若い宣教師は、神と共に現代の奇跡を起こしたのです。愛する人と心を通わせるという彼のチャレンジは、父親との間の延々たる隔りによって一層むずかしくなっていました。しかし、愛の精神は広大な太平洋を越え、崇高な語らいのうちに心が通い合ったのです。

オーストラリアの地で、腰まで水につかって父親と共に立ち、右手を直角に上げて次のような聖なる儀式の言葉を宣言したときのクレイグに勝る偉人がほかにいたでしょうか。「フレッド・サドバリー、われはイエス・キリストより権能を受ければ、天父と御子と聖霊とのみ名によりて汝にバプテスマを施す。」

母親の祈りと、父親の信仰、それに息子の奉仕が奇跡をもたらしたのです。母、父、息子、それぞれが榮譽の殿堂に入るにふさわしいと言えます。

天から語られた次の言葉は、なんと真実を述べていることでしょうか。「主なるわれはわれを畏る者に恩恵と憐みとを与え、終りまで義しく且つ真実にわれに仕うる者に誉を与うるを喜ぶ者なり。彼らの得る報いは大きく、その栄は永遠なるべし。」(教義と聖約76：5-6)

このように生活するならば、真実で朽ちることのない榮譽の殿堂に私たち自身も入ることができるでしょう。

□

ホームティーチャーへの提案

1. 私たちの人生を方向づけてくれるのは次のような人々である。


- 私たちの心を燃え立たせてくれる人
- 義務に忠実であることが私たち人間にとって不可欠な要素である、と悟らせてくれる人
- ありきたりの日常に変化を与えて、向上しようという気持ちを起こさせてくれる人

2. アダム、ヨブ、パウロ、ペテロ、ニーファイ、ジョセフ・スミス、ルツ、マリヤをはじめとして、聖典には、私たちが模範とすべき数多くの偉人の話が記されている。

3. これらの人々が忠実に仕えた人物こそ、彼らにも増してさらに偉大なお方、神の御子、救い主、贖い主、イエス・キリストである。

4. 全能の天父に対する揺るぎない信頼と、イエス・キリストに対する確固たる証は私たちの生活に大きな影響を及ぼすことができる。





父とのきずな

セルヘ・M・アエンサ

1950年、クリスマスを2、3日後に控えた日のことでした。その当時6歳だった私は、スペインのマリョルカ島のパルマに住んでいました。私は居間のバルコニーに立って、港を離れる船を見ていました。船には父と兄が乗っています。バルコニーには私と一緒に母と姉がいました。父は芳香物質を専門とする化学者で、南アメリカのウルグアイに職を求めて出発するところでした。しかし、その後父は子供たちや妻のもとに二度と戻っては来ませんでした。数年後、父と母は離婚しました。

その後何年もの間、父からの便りはほとんどありませんでした。そのうち母は私たちを連れて、自分の生まれ

故郷のフランスに帰りました。私はその地で1964年にバプテスマを受けました。その1年後に私はフランスをたち、ユタ州のプロボにあるブリガム・ヤング大学に入学し、間もなく伝道に出ました。そして、大学院に進み、結婚しました。

人生のこの時点まで、私は父のことをほとんど忘れていました。しかし、結婚後間もなく先祖のために系図を調べたいという願いを抱くようになってからは、父についてよく思い出すようになりました。祝福師の祝福によれば、私は時が来れば先祖のために系図の探求と神殿の儀式をすることができ、その業を達成するための資料と



必要な費用、機会が与えられるということでした。

私が教会に改宗した後、当時すでにフランスに移っていた私の兄から、父がアエンサ家に関する記録や先祖の名前、重要な日付などをまとめていると教わりました。私は自分の系図を祖父母から父方の曾祖父母まで結ぶのに必要な情報を得たいと思い、父に手紙を書く決心をして、系図の詳細を知らせてほしいと書いて出しました。

父の返事には、大まかな情報と、もう自分を煩わせないでほしいという内容のことが書いてあるだけでした。私は憤りを感じました。しかし、家族歴史活動を行なううえで必要な手だてや機会をいただけるよう天父に祈り続けました。

私たちがアリゾナに住んでいた1986年3月のあるとき、父から再び手紙が来ました。そのころ母は失明しており、家族は危機に瀕していました。母は再婚しており、継父が母に示してくれた思いやりに、私は慰められていました。しかし、父の母に対する批判的な手紙には再び傷つけられました。私はその手紙を送り返し、批判的な手紙はやめて楽しい手紙をくれないなら、むしろ音信がまったくない方がましであると書きました。3週間ほどして父の返事が届き、自分が死んだら兄を通して知らせる、もうお前には手紙を出さないと書かれていました。

その手紙を受け取ってから9カ月たちました。再び私は祝福文の勧告について祈りました。すると、祈りの答えがはっきりと聖霊を通して与えられました。私は父に謝るべきであると感じたのです。そのため私は5ページにわたる手紙を父に送りました。中には、その年の出来事を詳しく書き、また前の手紙の無礼を赦してほしいと書きました。その手紙を出すとき私は主が父の心を和らげてくださるように祈りました。

2カ月以上何の返事も来ませんでした。ある日、父から書留が届きました。それは私に、夏の休暇を10日余り取って自分の所に来てもらえないだろうか、もし来れるのなら、その費用の幾分かを送金するというものでした。

私はパリにいる兄に電話をしました。兄は父が私に会

うのを35年も引き延ばしてきたのだから、私も1年くらい時間をおいた方がいいのでは、と言いました。しかし私は妻のアンジーと祈っていると、ふたりとも祝福師の祝福のことを思い起こし、先祖は十分長く待ってきたのだと感じました。そして、今年行った方がよいと思いました。継父は私たちに経済的な余裕がないのを知って、妻の分の旅費を出そうと言ってくれました。しゅうとめはカリフォルニアの家で4人の子供たちの世話をすると伝えてくれました。すべてが順調にいききましたが、私には不安が残りました。父が母や妻のアンジー、そして私を批判するのではないかと気になり出したのです。以前にもそんなことがありました。今度はどうやってそれを切り抜ければいいのかとと思いました。

しかし、ふたりの献身的なホームティーチャーが出発の2、3日前に我が家を訪れて、神権の祝福をしてくれ、私は平安を感じるようになりました。彼らへの感謝はいつまでも忘れないでしょう。ふたりは妻が私の靈感の源となれるように、また、私が聖霊の導きをよく感じ、父に何を言うべきかわかるように祝福してくれました。私はそのときすべてがうまくいくとわかりました。

私たちがウルグアイのモンテビデオに着いたとき、私は緊張して父を探しました。そして父が彼の妻と共に立っているのを見つけました。父は私につえを振って合図しました。私も手を振りました。ついに税関の職員が通ってもいいと私に告げました。私が税関のドアを通り抜けたとき父は待ちかねたように私に向かって来ました。私たちは抱き合い、互いにキスを交わしました。私たちが空港のターミナルを離れたとき、聖霊が私にささやきました。私のそばを歩いている男性は私の頭の中にあつた以前の父とはまったく別人であると。

それから2、3日の間に、私たちはお互いに知り合い、談笑し、共通点を発見し、打ち解けました。アンジーと私は父に若いとき経験したことや、母との婚約時代のことをテープに録音させてほしいと頼みました。このことで、私たちは父の過去の様々な事柄を知ることができました。ある朝アンジーと私はひざまずき、「私たちが父



父が机の引き出しを開けてホルダーを取り出し、
1枚の紙を渡してくれたとき、私の胸は高鳴りました。

にアエンサ家の系図と歴史を教えるよう頼む日が訪れたなら、適切な言葉を口にするができるように」と祝福を祈り求めました。

やがて父の81歳の誕生日を迎えました。朝食のときプレゼントを開けた後で父は席を立ち、タオルで何かを隠しながら戻ってきました。父は私に箱を渡すと、こう言いました。「これは私にできる精一杯の気持ちだ。これまで長い間、お前を放っておいた償いを何とかしなければと感じていた。」箱の中には美しい時計が入っていました。

30分ほどして私たちは2階へ上がり、父のカシの木の机のそばに座りました。私はテープレコーダーに新しいテープを入れ、父に私の先祖のことを話してくれるよう頼みました。父は2、3分話してから、突然話をやめ、「時間の無駄だ」と言いました。

私はろうばいして、とっさに祈りました。「主よ、どうぞ私を助けてください。私は何年もこの時を待っていたのです。」そして父にこう尋ねました。「なぜ、無駄だと思うんですか。」

父は答えました。「実はね、印刷したものがあるんだよ。」父が机の引き出しを開けてホルダーを取り出し、名前のリストの載った1枚の紙を渡してくれたとき、私の胸は高鳴りました。「これは私の父方の先祖だ。このリストを持って行くといい。」私は急いでそれに目を通しました。それには父の両親、祖父母、曾祖父母また親類の名前もありました。

「お父さんの母方の方はどうですか。母方のリストも集めたのですか。」私は声を震わせながら尋ねました。

「お前のおばあさんの家系など重要ではないだろう。」父はそうつぶやき、私の質問に取り合おうとしませんでした。「もしおばあさんがいなかったら、お父さんだっこの世にいなかったでしょう」と私は言いました。「お前にとってそんなに大切ならこれを持って行きなさい。」そう言いながら父は私に名前を走り書きした数枚の紙の入った封筒を渡してくれました。「これで、すべての資料をお前にあげたことになる」と言って父は私にそのホルダーをくれました。

私はそれを開けると、遠縁の名前のリストの数枚に目を通しましたが、涙でかすんでよく見えませんでした。中には祖母、祖父、そのほかの人たちの写真もありました。私はわっと泣きました。過去21年間、私はこの日のために何度も祈ってきました。主は私の願いをお聞きになり、適切な時期に答えてくださったのです。

「なぜ泣くんさい？」父は尋ねました。

「今ここにいられることがうれしいんです。」私は答えました。

私の言葉で父もまた涙を流しました。父は私の肩に頭をもたせかけ両手で私の手を取り、「すまなかった。私がしたことは間違っていた。私は一度もお前の父親らしいことをしてやらなかった。これまで何十年もお前のことを知ろうとすらしなかった。赦してくれるかい。」

「もちろんですよ。これまでのことは、もう忘れしました。」私はすすり泣きながら言いました。私が父を抱いたとき聖霊が静かにささやきました。「主なるわれは、その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求めらる。」(教義と聖約64:10)私たちは平安に包まれました。長い別離の歲月、孤独、苦悩は消え去りました。父は私のことを知り、私がどんな息子かわかってくれました。そして私もついに父がどのような人なのか知ることができたのです。□

*セルヘ・M・アエンサ兄弟——アリゾナ州プレスコットステーク部ウィロークリークワード部所属。

壁の向こうで

ジャロルド・デービス
ノーマ・デービス

旧東ドイツの教会

第1部 孤立した聖徒たちの記録 1945—1989年

数週間後には第二次世界大戦が終わりを告げようとしていた1945年2月13日と14日の夜、連合軍の爆撃機による空襲で、ドレスデンの中心部は壊滅的な打撃を受けました。瓦礫の山のどこかに、アルスタッド支部の教会堂もうずもれてしまいました。これはドイツの教会にとって大きな痛手でした。

町の混乱が収まるとすぐに、空襲で焼け出された支部の会員は、エルベ川に残されたただひとつの橋を渡って行きました。ノイシュタット支部の会員たちに会うためです。この支部の集会所は、幸いにも戦災を免れたのでした。しかし、間もなくこの礼拝堂は改築され、家をなくした何百人という避難民の収容所となったため、教会員はふたつの小部屋で集会を開かなければならない状態でした。この支部に集ったのは、子供や若い母親、年配の夫婦がほとんどで、支部の青年や中年の男性で戦死しなかった人たちのほとんどは、依然として、ドイツ軍もしくは捕虜収容所での生活を強いられていました。

「電気は使えませんでした。……水を確保するために、2キロもの道のりを歩いて行かなくてはなりません。……3日ほどして、パンを積んだトラックが1台やって来ました。……瓦礫の山となった缶詰工場缶詰類を掘り出してもよい、という許可をもらいました。若者たちは、年老いた人々に食物を供給する目的で、奉仕グルー

プを組織しました。私たちは、支部の教会員の家を訪問して、礼拝集会を開いたり、ファイヤサイドを開いたりしました。集会を開くときには、コートを着たり、毛布にくるまったりして席に着くのです。私たちの心は感謝と希望に満たされていました。なぜなら、主がその民を見捨てられることはないと思っていたからです。……それはまさしく強い信仰と心の平安が宿る時代でした。」(エディス・クラウゼ姉妹から著者への手紙、1990年2月21日付)

戦争による荒廃が教会にどれほどの打撃を与えたのか、それを理解するには、ドイツ南部のザクセン州にあった教会がユタ州の大半のワード部より歴史が古いという事実を、理解しなければなりません。たとえば、ドレスデンのある支部は、若い改宗者カール・メーザーが最初の支部長として仕えていた1855年以来、ずっと存続してきました。(メーザー兄弟は、1875年に、ユタ州プロボのブリガム・ヤング大学の前身であるブリガム・ヤング学院の初代学長となった)

ドイツ東部全域に散在していた30、あるいはそれ以上の支部も、ドレスデンにあるふたつの支部と同じような経緯をたどってきています。

再建始まる

戦後間もなく、痛手を負った教会の再建を援助するために西ヨーロッパに足を踏み入れる宣教師の姿が見られるようになりました。しかし、当時「ソ連占領区」と呼ばれていた地域の教会員は、同じ恩恵にあずかることはできませんでした。後に「ドイツ民主共和国」と呼ばれ



BERLIN WEST, COURTESY OF FPG INTERNATIONAL



左 ドレスデン支部の指導者たち、1950年に撮影
下 エルベ川の対岸ドレスデンの風景と、1955年のド
レスデン支部創立100周年記念集会で説教をする、ヘロ
ルド・L・グレゴリー伝道部長

ることになるこの地域の聖徒たちが国外からの専任宣教師の訪れを受けるようになるには、それからさらに40年以上もの歳月を待たなければならず、しかもその間、壁の向こうの教会との交信も途絶えてしまいました。

終戦直後の数年間、地元の教会指導者たちに課せられた緊急の仕事は、所在のわからなくなった会員を捜し出し、援助の手を差し伸べることであり、同時に、残された支部を建て直すことでした。支部の建て直しには、若い神権者と専任宣教師の力が必要でしたが、実際には、女性や子供、そして年老いた会員たちの手で行なわれました。しかし、神権者が戦争や捕虜収容所から帰還し始めると、すぐに伝道活動の業に召されるようになりました。

ワルター・クラウゼ兄弟がポーランドの国境に近いコトブスの捕虜収容所から解放されたのは、1945年7月2日のことでした。コトブスの難民キャンプには幾人かの教会員が住んでいました。11月も終わりに近いころ、リチャード・ランラク伝道部長はクラウゼ兄弟に伝道に出ることについてどう思うか尋ねました。援助を必要としているたくさんの支部があったからです。「主が私を必要としておられるのでしたら、行きます。」クラウゼ兄弟はそう答えました。

「1945年12月1日、私は、20マルクをポケットに、また乾パンひと切れ、ハーブ茶ひと瓶を携えて伝道に出ました。出発の前に、ある兄弟は、戦争から帰ってこない息子の物だが、と言って私に冬着をくれました。また別の靴屋の兄弟からは、靴を1足もらいました。2枚のシャツに2枚のハンカチ、そして2枚の靴下を持って出かけました。」こうクラウゼ兄弟は回想しています。(マンフレッド・シュッツ編、未刊の自伝草稿集より抜粋、p.3)

乗り物を利用するのは、ほとんど不可能でした。クラウゼ兄弟の報告によると、あちこちの支部を訪問するのに12時間から13時間、距離にすると50キロぐらいまでは、歩くのが普通だったということです。しかし、それでもなお多くの会員を捜し出し、援助の手を差し伸べなければなりません。エリー・ポルジン姉妹も、そのような会員のひとりでした。

「私は1946年に子供と母を連れてシチェチン(現在はポーランドの都市)からやって来ました。……ある日のこ



PHOTOGRAPH BY PEGGY JELUNGHAUSEN



と、ふたりの宣教師が我が家を訪れました。そのうちのひとはグロイツシュ出身のワルター・ベーム兄弟といいました。彼らは私たちがもう一度教会と接触を持てるように助けてくれたのです。ふたりは、教会の支部があるシュベリンに引っ越すよう勧めてくれました。私はそこで職を見つけました。……多くの試練はありましたが、最終的には家族をシュベリンに連れて来ることができました。……何年もの間、アパートが手に入るまでは、ひとつの部屋で共同生活をしました。それから、1949年12月、クリスマスイブの前日に、夫が捕虜収容所から帰って来たのです。」(シュッツ、p.18)

エーベルハルト・ガブラー兄弟は、自分の召しについて次のように語ってくれました。

「経済的な支えはまったくありません。……しかし私には、今、主が私を必要としておられるのなら、きっと私を支えてくださるはずだという確固たる信念がありま

左上 ベルリンのブランデンブルク門

右 1955年、東ドイツで働くドイツ人宣教師

下 前列中央、東ドイツ戦後初の伝道部長ワルター・ストーベル長老。地方部長たちと共に。前列左より フリッツ・レーニッヒ兄弟、ワルター・ファスマン兄弟、

ストーベル伝道部長、ハインツ・ヒンケル兄弟、アントン・ラリッシュ兄弟。後列左より ブルノ・シュライテル兄弟、エーリッヒ・セルネル兄弟、ワルター・キント兄弟、ハンス・ボッチエル兄弟、ワルター・クラウゼ兄弟。



PHOTOGRAPH BY JOACHIM MESSERSCHMIDT, COURTESY OF FPG INTERNATIONAL



した。この信念があったため、私は希望を失いませんでした。」ガブラー兄弟は、38カ月もの間、当時東ドイツ伝道部と呼ばれた地区に、神の王国を建設する手助けをしました。……ほとんどすべてと言ってよいほど、各組織の指導は、宣教師の手にゆだねられていました。宣教師は、支部長、青少年の指導者、日曜学校の指導者、初等協会の役員、そしてあらゆる組織の教師を兼任していました。」(シュッツ, p.29)

ヘルベルト・シュライター兄弟の経験は、ドイツの神権者の経験としては、典型的なものです。シュライター兄弟は、1929年から30年の経済不況の時代に、2年間宣教師として仕えるため、せっかくの良い仕事を捨てました。帰還後も、1937年から41年にかけてケムニツ(後のカール・マルクス・シュタット)で支部長を務めました。1941年に、ドイツ軍に徴集されましたが、従軍中もオーストリアのザルツブルク支部の日曜学校会長として奉仕しました。戦争が終わってすぐ、1946年に、家族を残してもう一度伝道に出ました。そのときシュライター兄弟は次のように答えました。「もちろん、喜んでこの特権にあずかりたいと思います。心の準備もできています。」(シュッツ, p.46)

鉄のカーテンでさえぎられた教会の特殊な環境の下で働く神権者には、豊かな経験と分別が求められました。そのような神権者の大半は家族を持っていたのです。パウル・シュミット兄弟は自分の伝道経験を次のように記しています。「私は、1946年の夏に41歳という年齢で、50カ月間、妻とふたりの子供を残して伝道へ出なければなりません。戦後生まれの皆さんに、これがどのような意味かわかるでしょうか。」(シュッツ, p.50)

しかし、豊かな経験と分別は必ずしも宣教師にとって最も大切な宝というわけではありませんでした。シュミット兄弟は次のように書いています。「私たちが、もし経験だけに頼っていたら、何も成し遂げることはできなかったでしょう。というのは、1945年から1946年という時期に必要な経験をかつてしたことのある人はごくわずかだったからです。……私たちが頼りとしたもうひとつのもの、それは靈感です。私たちは勇気をもってこの靈感に従い、成功したのです。」(シュッツ, p.51)

信仰の働き

支部の建設は、文字どおり、建物の建築を意味することがよくあります。ドレスデンの宣教師がソ連軍司令部に集会を開く場所の提供を依頼したときにあてがわれたのは、空襲で焼けたドイツ軍兵舎の中にある、古ぼけた賭博場とぼくでした。会員のほとんどが、女性や子供、老人たちでしたが、食べるものも乏しい中で自分から重労働を買って出ました。たとえばあるときなどは、8人の女性、ふたりの執事、それとふたりの老人で、うまい具合に6メートルの鉄の梁はりを建物の中に運び込み、さらには、床上3メートルの所にある支柱の上に持ち上げて、取りつけたのです。

この建物はそれから40年間にわたって、ドレスデンにある支部とワード部が集う集会所となりました。同じ礼拝堂でキンボール大管長が1977年に説教をして、1980年代の後半にはプリガム・ヤング大学の学生グループ「レマン人の世代」の公演会場としても用いられました。この古い建物は、ドレスデンワード部が1988年に新しい礼拝堂へ移転したときに、会員たちの手により、夫婦宣教師用の快適なアパートに生まれ変わりました。

ドイツ民主共和国の南端のドレスデンの教会員と同じように、北方のシュベリンに住む教会員たちも、教会堂を見つけるのに大変な苦労をしました。10年間、多くの貸し部屋を転々とし、その後ある家族の居間に落ち着きました。そのような彼らも1956年にはいくばくかの不動産の購入ができました。ただ、教会は不動産が所有できないため、支部長の個人名義で購入しなければならず、また、既存の建物に貸し間がひと部屋含まれていたことから、建物を取り壊す許可が下りませんでした。しかし、残りの部分の土地に関して建築の許可が下りました。また、町から8キロ離れた所の兵舎を取り壊して建築用資材として使ってもよいという許可をもらいました。

ところが、トラック23台分の建築用資材を教会の敷地までやっと運搬し終わったというときに、建築の許可が取り下げられてしまったのです。しかし、聖徒たちの断食と祈りによって、敷地の中にあつた古い馬小屋を集会所に改造できるという許可が下りました。

建物の改造計画のためにはもっと多くの建築資材が必要でしたが、この建築資材は政府の厳しい統制下に置か

左上 ヴェルダウ支部扶助協会の姉妹たち，1956年撮影
 下 活動中のヴェルダウ支部の青少年，1977年撮影
 右 ゲルリツ地方部の初等協会，1973年の大会にて



れていました。しかし、会員たちの心の中には、この建築資材もきつと主の助けによって手に入れることができるという思いがありました。(シュッツ, p.22参照)果たして1958年1月5日、北ドイツ伝道部副伝道部長のヘンリー・ブルックハルト兄弟が、かつて馬小屋だった所をシュベリン支部の集会所として奉献したのでした。

1973年、シュベリン支部は、建物を拡張する許可を与えられました。しかし、これは建築資材の入手に伴う困難をもう一度繰り返すことを意味していました。ところが、勤勉で固い信念を持った末日聖徒に好意を抱くようになったルーテル福音教会の建築主任が、援助の手を差し伸べてくれたおかげで、大量の建築用ブロックが手に入ったのです。ほかの建築資材は少量しか入手できず、さらに申請のために長蛇の列に混じって待たなければなりません。支部の神権者たちは作業のスケジュール上、並んで待つというわけにはいかず、支部長の妻が

資材入手の責任を引き受けました。そして、彼女自身が建築現場までそれらの資材を手押し車で運んだのです。(シュッツ, p.24)

同じような話を、ドイツ民主共和国のほとんどすべての支部について、繰り返して語ることができます。たとえば、中南部に位置するライプチヒの会員が集会所として使っていた建物を立ち退かなければならなくなったとき、ある古びた映画館を改造してもよいという許可を得ました。会員は何カ月もの間、この作業に取り組みました。1968年、彼らがすばらしい献堂式を計画していた折も折、支部長のヘルベルト・シュライター兄弟に市当局から連絡が入り、建物の使用を禁止されたのです。支部が建築基準を完全に遵守していないから、という理由しか明らかにされませんでした。ところが最終的には、この新しく改造した教会堂の使用許可を、もう一度取得できたのです。

新たな障壁

時を同じくして、ドイツ民主共和国の政治情勢の変化のため、教会員を取り巻く環境は一層困難を極めていました。

ベルリンの壁が1961年に築かれる以前、東部ドイツの教会の指導者や会員たちは西部の教会とも接触する機会がいくらかありました。ドイツ西部地区の伝道部長がドイツ東部地区で働く専任宣教師を管理していました。しかし、この壁が築かれてからというもの、大体において伝道部長の訪問は、半年ごとに開催されるライプチヒ博覧会の時期だけに限られるようになりました。この時期ばかりはよほどのことがない限り、西側の訪問者も入国ビザを取得できたからです。ライプチヒ博覧会の時期になるといつもこの町には、国外から来た旧知の会員や教会の指導者たちに会う機会を求めて、会員たちが集まって来るのでした。(ただひとり例外的な教会員として、1963年から1966年まで伝道部長を務めたジョエル・A・テイト長老が挙げられるでしょう。彼はいろいろな方法を用いて、ほかの教会員よりも頻繁にこの国に入国し、宣教師や会員を訪問しました)

1961年以前は、宣教師大会が西ベルリンで行なわれることがあり、ドイツ民主共和国から足を運んだ宣教師や会員も、教科課程のテキストをかばんに入れて持ち帰ることができました。政府の認可はないにしても、このような行為が国境を越えるたびに公権によって拒否されたわけではないのです。持ち帰った教科課程のテキストは、それぞれの支部に行き渡るように地元の末日聖徒の手でタイプ打ちされ、カーボン紙で複写されました。1961年を境に、このような教会の正規の書籍類の入手さえも、次第に制限を加えられるようになりました。パウツェンのヨアキム・アルブレヒト兄弟は、当時の状況をこう語っています。

「私たちは、ブルックハルト伝道部長から、承認されていない宗教関係の教材、図書、テキストなどは、すべて処分するようにとの指示を受けました。私は悲しくて胸が張り裂けそうでした。私は正規の許可は受けていませんでしたが、量的には少なくとも、すばらしい教会の資料を、歳月をかけて集めていたのです。私は暖炉の前に座りました。できない、私は心の中で声を上げました。

私には絶対にできない!しかし、結局私は苦勞して集めた図書やテキストをひとつ残らず焼き捨ててしまいました。それから2週間とたたないうちに、秘密警察が我が家のドアをたたきました。彼らは、公認されていない印刷物がないかどうか部屋中を捜し回りました。そのようなものは全くありませんでした。私はこの経験を通して、靈感を受ける指導者について、彼らの勧告に従うことについて、大切な教訓を学んだのでした。」

喜びの時

制限されたのは書物だけではありませんでした。1960年代中ごろまで、国内での専任宣教師の活動も認可されませんでした。伝道活動を許可されていたのは、第一線を退いた年配の夫婦宣教師のみで、伝道の方法にも厳しい制限がありました。地元の教会活動も自由には行なえませんでした。多くの支部では集会を開くたびに、支部長が警察に申請書を出さなければなりません。申請書には、話者の氏名と話のテーマを書き添え、集会には秘密警察官が立ち会うことになっていました。

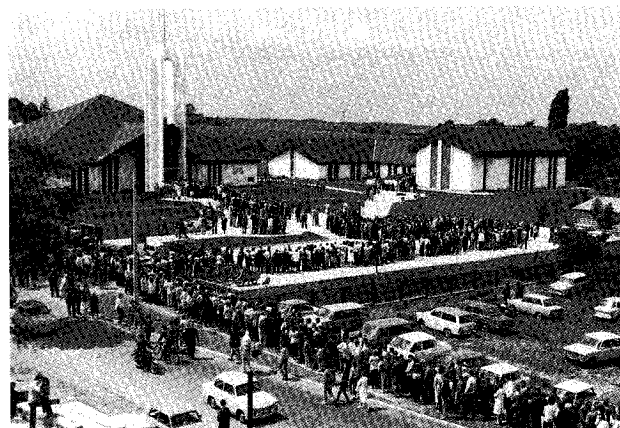
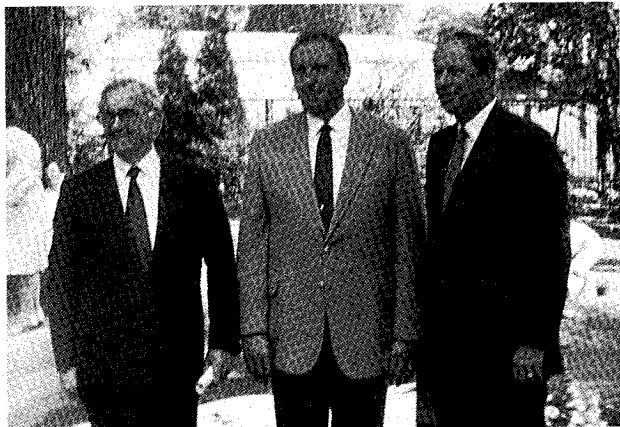
1960年代後半から1970年代初頭にかけてが、ドイツ民主共和国の教会にとって最も困難な時代だったように思えます。しかし教会員自身は、この時代を懐かしく、また喜びさえ感じて振り返ります。外からの圧力が大きいほど、会員たちは互いのきずなを深め、教会と主に対する忠誠心を強めていったからです。集会への出席率は高く、ホームティーチングや訪問教師の割り当ても、教会員は誠実かつ献身的に果たしました。互いに消息を確認し合い、助け合いました。什分の一やそのほかの献金も、きちんと納められました。

何年もの間孤立状態にあったにもかかわらず、信仰を守り通した会員もいました。現在ドレスデンワード部の監督を務めるグンテル・シュルツ兄弟は、自分の大半の時間を割いて、音信の途絶えた会員を捜し出し、彼らの世話をしました。その中には、ポーランドに住んでいた人もいましたし、ドイツ民主共和国のへき地に住んでいた人もいました。このような会員の中にシュレジェン北部で見つかったひとりの年配の姉妹がいました。

シュルツ兄弟は次のように思い出を語っています。「私たちは、彼女と長い間話をしました。彼女はストー

上 1982年のドレスデンでの大会に出席した十二使徒評議員会会員トーマス・S・モンソン長老(中央)、地区代表ハンス・B・リンガー長老(左)、ヨーロッパ地域代表管理役員ロバート・D・ヘイルズ長老。

下 1985年、何千人もの訪問者が詰めかけた献堂前のドイツ・フライベルク神殿。



プの後方に行くと、いくつかの結び目のあるストッキングを持ち出してきて、結び目をほどこぎ始めました。それが終わると、ストッキングの中から取り出したお金を両手ですくうようにして差し出しながら、こう言いました。『これは私の什分の一です。これまで25年余りの間ためてきたものです。神権者がいつかもう一度我が家を訪れてくれると思っていました。』』

輝きを増す日

このような暗やみに取り巻かれた困難な時代に、後々、ドイツ民主共和国の教会にとって分岐点となるある出来事が起こりました。1968年11月9日、10日の2日間、ドイツ北伝道部の伝道部長スタンレー・D・リース長老夫妻が、十二使徒定員会のトーマス・S・モンソン長老と共に、ドイツ民主共和国の地に足を踏み入れたのです。

クラウゼ姉妹は、こう思い返しています。「この方(モンソン長老)はとても若かったので、宣教師だろうかと思われは思いました。というのは伝道部長がこの国を訪れるときには、よく宣教師を連れて来られたからです。」(クラウゼ姉妹からの手紙、p.5)

ポーランドの国境近く、ゲルリツで開かれた集会の中で、モンソン長老は、東ドイツの末日聖徒も、ほかの国の教会員が享受しているような祝福を余すところなく受けるでしょう、と約束しました。『神に感謝を捧げん』「聖徒の道」1989年7月号、pp.54—57参照)ドイツ民主共和国を取り巻く冷戦状態が即座に氷解しようとは思われませんでした。この国の教会にも少しずつ変化の兆しが見え始めました。最初のうちはゆっくりと、しかしその後の20年間は加速度的に変化していったのです。

1975年4月27日、ドレスデンとマイセンの間を流れるエルベ川を見下ろす丘の頂で、モンソン長老はドイツ民主共和国で福音を宣べ伝えるみ業のためにこの国を奉獻しました。1977年8月24日、スペンサー・W・キンボール大管長が、戦後に将校たちの賭博場を改造して造ったドレスデンの教会堂で説教をし、1982年の8月には、フライブルクステーキ部が組織されました。さらに1983年4月23日には、フライブルクで神殿の^{くわ}歛入れ式が執り行なわれました。1984年6月にライブチヒステーキ部が組織され、翌年の1985年には、ドイツ・フライブルク神殿が奉獻されました。神殿に隣接するフライブルク、ライブチヒ、ツピッカウ、ドレスデン、そしてカール・マルクス・シュタットと、國中あちこちに許可を受けた末日聖徒の新しい教会堂が建てられていきました。

1988年10月、50年の歳月を経て、ついに国外から専任宣教師を入国させ、伝道部を開設してもよいと宣言されました。ドイツ民主共和国を覆っていた暗やみが取り去られ、厳かな夜明けの光がこの国を照らし始めたのです。

□

*ジャロルド・デービス、ノーマ・デービス夫妻——ドイツ民主共和国のドレスデンで宣教師として働いた。デービス兄弟はユタ州プロボのプリガム・ヤング大学のドイツ語教授、およびゲルマン・スラブ語学部長、デービス姉妹は人文学の助教授。ユタ州プロボ・オークヒルズステーキ部オークヒルズワード部所属。

壁の向こうの教会

1945—1990年

1946年

ワルター・ストーベル兄弟が、戦後最初の東ドイツ伝道部伝道部長に任命される。

十二使徒定員会のエズラ・タフト・ベンソン長老が、全ドイツおよびポーランド諸地域での福祉供給物資の配給を管理する。

1947年

5,000人に上る末日聖徒が、ドレスデンにおいて開かれた教会の開拓者100年記念祭に参加する。ドイツで開かれた末日聖徒の式典としては最大のもの。(ストーベル伝道部長は、旅行許可が下りず欠席)

1952年

6月23—24日 デビッド・O・マッケイ大管長が、ベルリンにおける大会で説教を行なう。ドイツ民主共和国の教会員の多くが、出席を許可される。

1955年

10月22—24日 ヘロルド・L・グレゴリー伝道部長が、ドレスデン支部の100周年記念祝賀会を援助するため、ドレスデン訪問を許可される。

1968年

11月9—10日 トーマス・S・モンソン長老がドイツ民主共和国を訪問、ゲルリツで説教し、東ドイツの末日聖徒も、ほかの国の教会員が享受しているような祝福を余すところなく受けるであろう、と約束する。

1969年

6月15日 モンソン長老が、ドイツ民主共和国の全教会員を管理するドレスデン伝道部を組織する。ドレスデン在住のヘンリー・ブルックハルト兄弟が、伝道部長に任命される。

1970年

ワルター・クラウゼ兄弟が、ハロルド・B・リー大管長によりドレスデン伝道部の祝福師に聖任される。

1975年

4月27日 ドレスデンに近い山腹で、トーマス・S・

モンソン長老が、ドイツ民主共和国で福音を宣べ伝えるみ業のために、奉獻の祈りを捧げる。

1977年

8月24日 ポーランド旅行の帰途、スペンサー・W・キンボール大管長がドイツ民主共和国を巡回旅行し、ドレスデンの教会堂で説教をする。

1982年

8月29日 フライブルクステーク部が組織される。

1984年

6月3日 ライプチヒステーク部が組織される。

1985年

6月28日 ドイツ・フライブルク神殿が献堂される。

1988年

5月 ブリガム・ヤング大学の演奏グループ「レーマン人の世代」が、ドイツ民主共和国を公演旅行。

10月 ドイツ民主共和国政府が、宣教師の入国許可を宣言する。

1989年

3月31日 新たに組織されたドイツ民主共和国ドレスデン伝道部の宣教師たちが入国を開始する。この宣教師たちは、50年間の空白の後に、その国で働く専任宣教師として許可された、最初の外人宣教師である。

12月31日 1989年12月31日現在の新伝道部の年間バプテスマ数が、569人を記録する。

1990年

10月21日 西ベルリンにおける3ステーク部合同大会で、ライプチヒステーク部が分割される。ライプチヒステーク部の北部に位置するワード部と支部が、西ベルリンステーク部に編入される。また、西ベルリンステーク部がドイツ・ドレスデン伝道部の管轄になり、西ベルリンで伝道していたドイツ・ハンブルク伝道部の宣教師が、ドイツ・ドレスデン伝道部に移籍する。□

テレビの 効果的な利用法

ジーニン・R・フレーク

長年、テレビが社会——特に、家庭にもたらす悪影響について、人々は不満を漏らしてきました。しかし、必ずしも悪い面ばかりではありません。利用の仕方によっては、テレビも価値ある道具となります。あなたの家庭に良い影響をもたらすテレビの利用法を、ここにいくつか挙げてみましょう。

1. **番組を上手に選択してください。**1989年4月の年次総大会で、十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は次のように語りました。「私たちは人を不快にさせ、品性を下げるような事柄を各自の家庭から遠ざけて、テレビや社会に蔓延する不正で不道德な傾向を変えるように努めなければなりません。」(『テレビの影響力』「聖徒の道」1989年7月号, p.84)

テレビを効果的に活用するための最も大切なステップは、おそらく、見る番組を制限するルールを各家庭で決めておくことでしょう。何でもいいから今やっている番組を見る、という姿勢は避けてください。あなたもあなたの子供たちも、腰を下ろしてテレビを見る前に、番組を選ぶ必要があります。番組案内を見れば、その内容や性格を判断することができます。番組が終わったら、テレビを消しましょう。

2. **家庭でテレビを見る時間を決めておきます。**1週間、家族の一人一人が何時間テレビを見たか、そのほかの活動には何時間費やしたかを書き留めておきます。そ

れから、家族で結果を分析します。あなたの意見を述べ、どれだけ改善できるか話し合ってください。

話し合いの中で、あなたも1日にどれくらいの時間テレビを見るか決め、平日の夜、宿題の前、朝食の前など、家族がテレビをつけない時間も決めます。また、子供たちがテレビを見る代わりにできる活動のリストを作れるように、助けてあげてください。

3. **番組がふさわしくない場合は、テレビを消します。**ふさわしい番組と、そうでない番組を区別するように、子供に教えてください。良くない話題や場面が、頻繁にテレビ番組の中に見受けられるようになっていきます。そのような場面に出くわしたら、テレビを消して、良くない番組が靈性に有害であることを子供と話し合ってください。

4. **家族みんなに、良質の番組を見るように勧めます。**両親が健全で教養ある番組を優先して見るなら、子供たちもそれに倣うでしょう。両親が模範を示さなければなりません。大会説教の中でバラード長老は、テレビの肯定的な面についてこう語っています。「利益としては……、瞬時に地方や世界の出来事が把握できる点があげられます。また……見知らぬ土地を探検したり、歴史を学んだり、劇やダンス、音楽を楽しんだり、世界の様々な文化を体験したりすることができます。」(『テレビの影響力』p.82)



子供たちが賢明に選択できるようにするには、自分の好きな番組をいくつか挙げてもらい、分類させるのもひとつの方法です。たとえば、漫画、コメディ、スポーツ、SF、ニュースなど、その種類に従って分けさせます。子供たちの選択が狭い範囲に偏っていたら、テレビの番組案内を一緒に眺めて、分野の違う良い番組をいくつか推薦してあげます。

5. 番組を見て、子供と話し合います。多くの人は、テレビは単なる娯楽媒体、またはリラックスしたり、問題から逃避したりするためのものであり、考えさせるものではないと思っています。調査によれば、子供たち、特に6歳から12歳の小学生にとって、テレビによる教育効果はきわめて大きいことが明らかになっています。番組を見ながら質疑応答する方が、番組の前後にそうするよりも子供たちの心に強い印象を残します。

子供たちには次ような質問をするとよいでしょう。「これは何についての話だろう」「こんな出来事を見たことがあるかい」「あの登場人物はどんな人だろう」「この話の結末はどうなると思う」「あの登場人物が感じているような気持ちを感じたことがあるかい。」

6. 子供たちが番組を評価できるように助けます。テレビを教材として役立ててください。たとえば、個々の争いや重要な問題に対して、解決の選択範囲を広げる方法を教えられるかもしれません。次のように質問してみてください。「あの登場人物はどうして悩んでいるのだろうか」「どんな解決策があるだろうか」「その結果は、どうなるだろうか」さらに、「最も良い方法は何だろうか、その理由は？」

7. 価値について話し合います。テレビは様々な種類のテーマを採り上げます。映し出されたものがふさわしくないと感じたら、テレビを消して、子供にその理由を説明してください。あなたが選んだ番組では、登場人物の行ないや、テーマについて話し合ってください。そうすることにより、様々な事柄に対する子供たちの反応を

知り、彼らに福音の価値を教える機会も得られます。彼らが、福音の教えに賛同したときには褒めてあげてください。また、これらの価値ある教えを生活の中で生かせるように助けてあげてください。

8. 暴力は遠ざけます。登場人物が互いに助け合い、思いやりを示し合うような番組を見るように、子供たちを促してください。調査によれば、そうした番組は子供たちに良い影響を与えることがわかっています。

番組の中で過度に暴力的なシーンが現われたら、テレビを消して、その問題を子供たちと話し合しましょう。「あの登場人物が暴力を振るったのは何が原因だろう」「現実ではもっと違う態度をとる人がいるだろうか」「暴力に訴えずに争いを防ぐには、どうすればいいだろう。」暴力がもたらす痛ましい結果を指摘するとともに、暴力シーンを見る有害な影響についても念を押してください。

9. テレビを読書の動機づけに利用します。子供たちは興味をそられると、本を読みます。ですから彼らが教育番組を見て、特定のテーマやその番組で採り上げられた別のテーマについて、さらに調べてみるように励ましてください。

10. テレビについて自分自身の意見を持ってください。ときには、見るに値する番組がないこともわきまえるべきです。自由な時間にテレビを見る代わりに、あなたや家族ができるいろいろな趣味や楽しみがあります。多くの場合、あなたが行なう事柄の中でテレビを見る優先順位はずっと低いのです。特に、良くない番組を見ても建設的なものは何も得られません。福音の価値観に添い、それを支持する番組を選択する方法を習得してください。

テレビは強力で直接的な影響力を見る人々に与えます。同時に、大変多くの有益な情報を伝えることができます。すべての番組を非難するのではなく、テレビに向けられている子供たちの関心を、彼らの分析能力を強めるため、さらには教育のために利用してください。□

キリストの純粋な愛

—ひとつの生き方

中央扶助協会会長会

キリストに従った古代の人々は良い行ないをすることで知られていました。彼らは、「それぞれの欠乏と要用とに応じて肉体についても霊についても互いに助け合」いました。(モーサヤ18:29)何か特別なことをしたり、遠くまで出かけて行ったりしたわけではありません。ただ自分たちの住んでいる所で奉仕をしたのです。

1842年、予言者ジョセフ・スミスはノーヴーで姉妹たちを組織し、自分たちの町に住む困っている人を助けるために最初の扶助協会を設立しました。それ以来150年の間に、扶助協会は無数の奉仕活動を行ない、現在その活動範囲は128の国々と属領に及んでいます。

中央扶助協会会長のイレイン・L・ジャック姉妹はこのように語っています。「今日の扶助協会の姉妹たちは、正義の旗を掲げる軍隊の先陣です。『愛はいつまでも絶えることがない』は扶助協会の非常に大切なモットーなので、1992年の扶助協会150年祭を人道主義的な奉仕というテーマの下で行なうことにしています。キリストの純粋な愛から出た奉仕とは、気まぐれに行なうたぐいのものではなく、ひとつの考え方であり、生き方です。また私たちが身につけるべき生活態度なのです。」

日々の生活の中でキリストの純粋な愛から出た奉仕はどのように実践できるでしょうか。

人に分かち与える

扶助協会の姉妹たちは、これまで様



ILLUSTRATED BY RON PETERSON

様な方法により自分たちの住む地域社会の中でキリストの純粋な愛を実践してきました。

ウィスコンシン州のミルウォーキーでは、ステーク部扶助協会会長のダーン・ルートウスキー姉妹が、虐待された子供たちのために新設された施設で小さなキルトを必要としているという記事を読みました。ある土曜日の午後、150人以上もの婦人や少女たちが集まって300枚のキルトを作り、子供たちは温かいキルトにくるまって安らかに眠ることができました。

香港の九龍^{ホンコン}ステーク部^{カオロン}では、地元のある病院で新しい枕やシーツが必要だとわかり、扶助協会の姉妹たちが布を買い、150個の枕やそのほかの品物を作りました。

イタリアのシラクサ市では、7人の扶助協会の姉妹たちがほかの教会や市民団体の婦人たちと協力して、貧しい未婚の母親のための施設を作りました。

1歳半になるポリビアの男の子ダニーは、ソルトレークシティにある初等協会小児病院へ飛行機で運ばれ、足と腰の矯正手術を受けました。そして、回復するまでの3カ月間に、扶助協会

の姉妹たちから献身的な世話を受けました。

ユタ州ホラデー北ステーク部の扶助協会会長シャロン・カステラー姉妹は、このように報告しています。「ダニーの世話をしてくれた姉妹たちは、福音の精神を実生活に生かしています。愛を分かち与えているからです。」

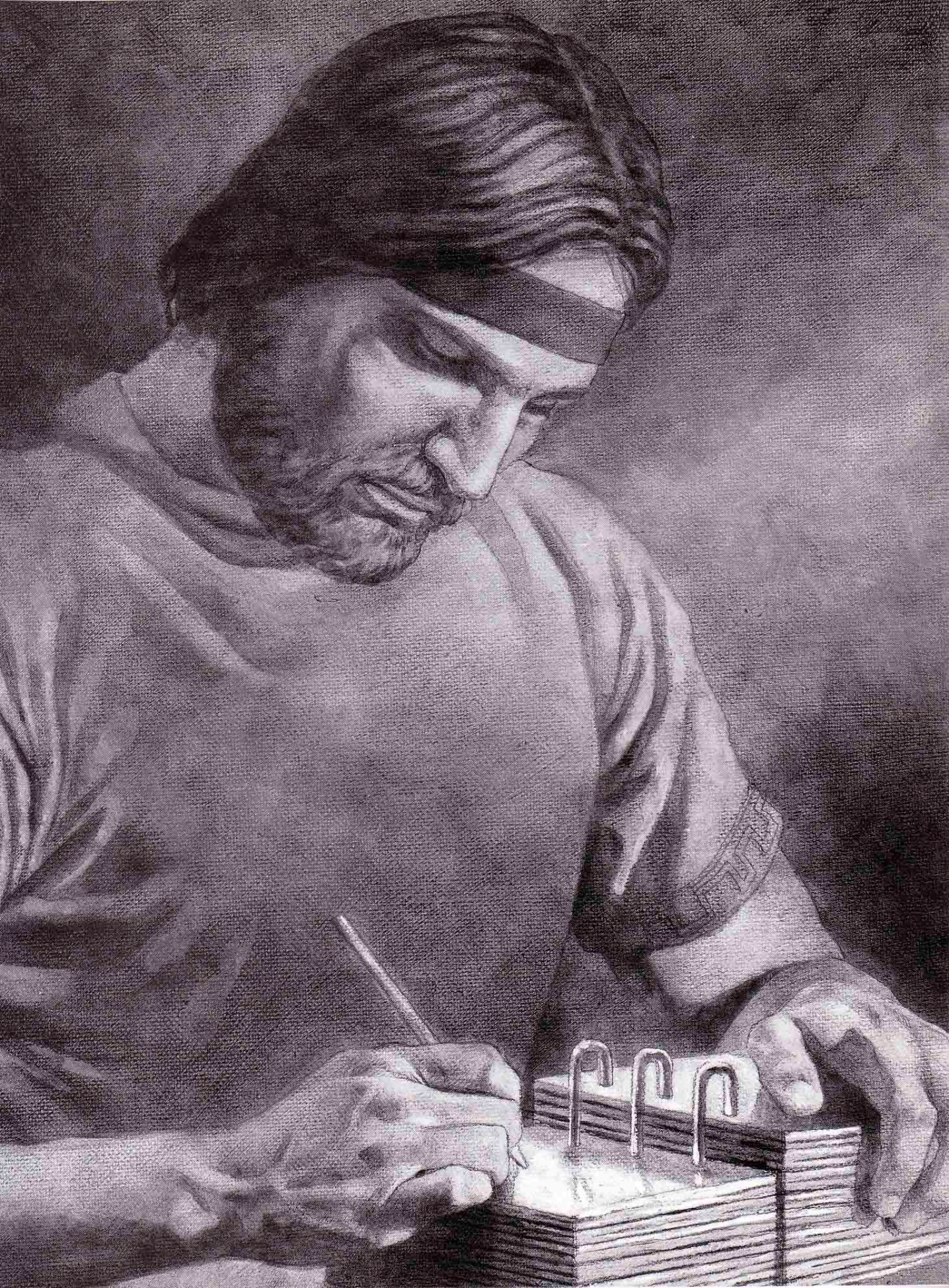
扶助協会の姉妹たちは自分たちの住む地域社会の中でどのような奉仕ができるでしょうか。

何から始めればよいでしょうか

管理監督会第二副監督のグレン・L・ペイス長老は、教会員は断食献金の額を増やすことによって、教会が困っている人々をもっと援助できるように助けることができると同時に、「すべての会員は世界の平和のために、また人々の無事を願って祈ることができます」と述べています。

また、周りにいる人々の必要に対して目を開くようにと、次のように私たちを励ましています。私たち一人一人は「隣近所や自分の住んでいる地域社会において最も大きな慈善奉仕をすることができます。」(『警告に従わなかった人への援助』「聖徒の道」1991年1月号, p. 10)率先して奉仕する方法を見つけなくてはなりません。正しい原則を教えられている私たちは、割り当てを待つ必要はないのです。

皆さん、扶助協会150年祭を迎えるに当たり、「肉体についても霊についても」共に奉仕しようではありませんか。□



「私たちは キリストのことを予言し」

ブルース・A・バン・オーデン

ニーファイ第二書に見られるキリストの証し人たち

主はいつの時代にも、ご自身のみ言葉と力とを世に知らしめるために、地上に証し人を遣わしてこられました。私たちの地上での人生の目的のひとつは、試しを受けることです。つまり、天父のみもとから離れて生活する間、神に信仰を持ちその律法に従うかどうかを試されるのです。(アブラハム3：25参照)私たちがその試しを乗り切れるように、「主は証人の原則を定められました。この原則により、主はご自身を予言者や義人に現わされ、彼らに律法を教え、神と真理について証する力を与えられるのです。」(「約束されたメシヤ——キリストの降誕」p. 84)ブルース・R・マッコンキー長老はこのように述べています。

ニーファイ第二書の中でニーファイは、キリストが来られて人類を贖うことを証明するために、証人の原則を用いました。「ごらん私はキリストの降臨がほんとうであることを私の民に証明するのを心に喜ぶ。……また私はキリストが来りたまわれないならば、万人が亡びなければならないことを私の民に証明するのを心に喜ぶ。」(II ニーファイ11：4, 6)

ニーファイは特にイザヤとヤコブを指してこう言いました。「それであるから、私の言うことがほんとうであることを私の子孫に証明するために、私はこの二人の言葉を子孫に伝えよう。神は『われは三人の証言をもってわが言葉を確めん』と仰せになったけれども、神はさらに多くの証人を遣わしたもうて、その言葉をことごとく証明したもうのである。」(II ニーファイ11：3)ニーファイ第二書が、ニーファイの父であるリーハイの証で始まっていることから、確かにそこには3人よりも多くの証人がいることがわかります。

ですから、ニーファイ第二書には歴史事項が少なく、リーハイの死、そしてレーマン人とニーファイ人の分裂の記事(4：12；5参照)以外は、専ら4人の証人、すな

わちリーハイ、ヤコブ、イザヤ、そしてニーファイ自身の、贖い主とそのみ業に対する証の言葉が集められています。主を証することが、彼らの第1の目的だったので。ニーファイはこう記しています。「私たちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを予言し、また私たちの子孫にどこに罪の赦しを求めらるかを知らせるために自分たちが予言したことも書くのである。」(II ニーファイ25：26)

これら4人の証人の力強いメッセージは、救い主でありイスラエルの聖者であるお方が私たちを、そして人類全体を救われるということでした。この救いは、キリストの最初の降誕と再臨の両方に関係があります。時の絶頂に主は、贖罪と復活によって人々に救いを与えられました。そして末日にあっては、散乱したイスラエルの民に主ご自身に対する知識を回復することにより、彼らを背教から救われるのです。

救い主に対するリーハイの証

(II ニーファイ1：1—4：12)

ニーファイが記しているように、リーハイの教えは全体を通して、救い主というテーマの上に成り立っています。父リーハイは息子たちに警告して言いました。「ごらん、もしもかれらがイスラエルの聖者まことのメシヤ、かれらの贖い主であつてかれらの神であるお方を捨てる日がくる時には、正しい神の裁きがかれらに下る。」(1：10)

贖いの証 ヤコブに与えた教えの中でリーハイは、「聖いメシヤに在りしかも聖いメシヤによって人間に施される」(2：6)贖いについて語りました。リーハイは贖いについて学ぶ必要性を強調したのです。「それであ

るから、これらの事をこの世に住む人々に聞かせて、……知らせるのは非常に大切ではないか。」(2:8)「これらの事」とは何でしょうか。ひとたび命を捨て、再びよみがえられたメシヤの功德と慈悲、恵みに頼らなければ、神のみ前に住める人がひとりもないこと(2:8参照)です。贖いを説明するのにリーハイは、アダムの墮落の影響と、すべての物事にその反対のものがなければならぬことに触れています。人が自由意志を行使できるのは、アダムが墮落し、物事にその反対のものがあるからです。(2:15-16参照)また、人類が善悪をわきまえ、自由と永遠の生命を選ぶことができるのは、救い主の贖いがあるからです。(2:26-27参照)

回復の証 末子のヨセフに与えた教えの中でリーハイは、エジプトに売られた先祖、ヨセフの予言を引用し、末の世における主の回復の業について語りました。主は、ヨセフ(訳注—英語の発音はジョセフ)という名前の聖見者を起こし、その聖見者を通して、ヨセフの子孫に先祖と交わした誓約を知らせると約束されました。(3:7, 15参照)さらに主はその聖見者に、土の中から叫んでいるかのような、古代のヨセフの子孫たちの声を回復する権能を与えと言われました。(3:11-12, 19-21参照)その声は今日、モルモン経を通して聞かれます。すなわち、ヨセフの3人の子孫—リーハイ、ヤコブ、ニーファイ—の言葉が、死者の中から語りかけるかのように、ニーファイ第二書には記されているのです。

リーハイが死を迎える前に残した証は、彼の子孫が亡びることなく、後には祝福を受けるであろうという主の約束でした。(4:5-9参照)この回復の時代に生きる私たちは、その祝福の成就を目の当たりにしています。

救い主に対するヤコブの証

(II ニーファイ 6, 9, 10)

ヤコブは主とその民との関係を強調しました。その方法として、聖典の中からイザヤの言葉を用いて教えています。(6:5-7, 16-18; 7-8参照)ニーファイの記録したヤコブの教えは、2日間にわたる何らかの集会、おそらく宗教的な祭りの場で述べられたものと思われる。

回復の証 ヤコブが強調したのは、ニーファイ人がイスラエルの民に数えられており、また主の民と呼ばれるべき人々とは救い主の降誕と再臨を待ち望む民であるという点でした。(6:5, 13-14参照)また最終的には、主がすべてのイスラエルの民をその受け継ぎの地に集められ、そのとき「かれらがその贖い主を知るようになる」(6:11)と約束しました。ヤコブはこの約束を、1章にも及ぶイザヤの予言を引用しながら説明したのです。(8章参照)彼はまたイザヤに対する主の問いかけを引用しました。「わが力が少しでも減ったから贖うことができぬのか、それともわれには全然救う能力がないのであるか。」(7:2)その答えはもちろん、否であり、イスラエルの民は自信を持ってこう言うことができます。「主なる神がわれを助けたもう。それであるから、われは恥しめを受けないのである。」(7:7)ヤコブはまた、誓約の民が「神の真の教会と羊の群に再び復され」るであろうと説明しました。(9:2)

2日目にヤコブは、後の世において「贖い主が真に解る道にくる」(10:2)イスラエルの民に、神が憐れみを垂れたもうことを証しました。「贖い主が真に解る道」というのは、長く散乱したイスラエルを受け継ぎである約束の地に集めるみ業のことです。(10:7, 10-11, 18-19参照)

贖いの証 ヤコブはまた、霊の贖いが必要であることを証しました。さもなければ、「肉体は墓に横たえられて……再びよみがえることはない」し、「霊は必ずあの天使〔悪魔〕のようになり、……私たちの神の御前から締め出され」るのです。(9:7, 9)しかし主は、その恐ろしい怪物、すなわち死と地獄から逃れる道を備えて、人々を救って下さいました。(9:10, 19参照)主の贖いと復活により、すべての人々は復活してイスラエルの聖者の裁きの座に引き出されるのです。(9:12-15参照)神の王国に救われるには、悔い改めてバプテスマを受け、イエス・キリストを信じなければならないと主は命じられました。(9:23参照)ヤコブの最後の願いはこうでした。「願わくは神が復活の力をもってあなたたちを肉体の死からよみがえらせ、またキリストの身代りの贖罪の力によって、あなたたちを永遠の死からよみがえらせたもうて、あなたたちが神の永遠の王国に迎え入れられ聖い恵みによって神を讃美するように。」(10:25)



ニーファイ第二書の証は、ひとたびご自身の命を捨て、再びよみがえりたもうたメシヤの功德と慈悲、恵みに頼らなければ、神のみ前に住める人はひとりもないことを教えてください。

救い主に対するイザヤの証

(II ニーファイ 7-8, 12-24, 27)

ニーファイは、リーハイとヤコブと彼自身の救い主に対する証を一層確かなものにするために、イザヤの予言したキリストの降誕と、末日にイスラエルに与えられる救いについての言葉を引用しました。その目的をニーファイは、次のように簡潔に説明しています。「かれらの主なる贖い主を信ぜよと言うことを一そう切に勧めるために、予言者イザヤが記したことをかれらに読み聞かせた。」(I ニーファイ 19:23)ある学者の所見によると、モルモン経の中の425節にも及ぶイザヤの引用のうち、391節までが何らかの形で救い主の属性と使命に関連しているとのこと。 (モンティ・S・ナイマン「大いなるイザヤの言葉」p. 7参照)

回復の証 主に対するイザヤの証は、実に明確なものでした。再三にわたり彼は、過去におけるイスラエルの強情さや罪を将来与えられる救いと対比させて語りました。(II ニーファイ 13-14参照) また、すべての国民が、平和と正しい裁きとを求めてイスラエルのもとに集まって来る日の到来を、イザヤは断言しています。(12:2-4参照) そのために主はまず、もろもろの国民のために旗を立て、その手を伸ばしてイスラエルの残りの子孫を回復することから始められます。(21:11-12参照) そして力ある僕を召し、聖霊によってその僕に、知恵ある言葉と理解力、勧告の力、勢力と知識を回復します。集合の旗を掲げるこの僕の働きは、福千年への先駆けとなるのです。(21:1-10参照)

贖いの証 主の降誕のしるしは、処女が身ごもり、その子は「神われらと共にいます」という意味のインマヌエルと名づけられるというものでした。しかし救い主の誕生は、人々の期待に反して、「イスラエルの二つの家にはつまづく石となり、さまたげる岩」(II ニーファイ 18:14)となりました。しかしながら、その誕生は、暗やみの中にいた人々にとっては大きな光となりました。主の統治の特色は、平和と正義であり、主の権力ははいよいよ増して限りがないのです。(19:2, 6-7参照)

ニーファイが引用している、贖いに対するイザヤの証は、末日に主がイスラエルの民を贖われることにも触れています。「シオンの娘らの汚れ〔が〕洗い清め」られ

(14：4)、罪が「とり去られ」る(16：7)ことについての言葉が、主の再臨に伴って起こる出来事に関するこの大いなる啓示の中にちりばめられているのです。ニーファイは、イザヤの予言が自分の民にとって理解しにくいものではあっても大切なものであると知っていました。(25：1—3参照)そして、ニーファイ第二書の最後の章では、イザヤの予言が将来それを読む者にとって、どれだけ価値あるものになるかを悟り、自分自身の予言の言葉を用いて次のように言っています。「それはこのような言葉が末の日に大そう私の民のためになることを知っているからであって、またそれは末の日に私の民がこの言葉の意味を理解するからである。それであるから、私はかれらのためにこれを書く。」(25：8)

救い主に対するニーファイの証

(II ニーファイ 11, 25—26, 28—33)

リーハイ、ヤコブ、イザヤの証を伝えた後で、ニーファイは「私は自分の明瞭な話し方でこれから私の予言を述べよう」(25：7)と言っています。そして、予言を残してこの世を去っていった、それまでの予言者に倣って、イスラエルに与えられる救いについて予言しました。ほかの3人の証人がしたように、ニーファイも独特の話し方で予言を述べました。その特徴は、「誰でもよく解って間違いをしない」明瞭さでした。(25：4, 7参照)

贖いの証 ニーファイは、救い主に対する自分の証を次の予言で始めています。「かれらは……とうとうこの独子を十字架にかけろ。しかし、独子は三日の間墓に横わりたもうてから、自身にある癒しの能力をもって死者の中からよみがえりたもう。それであるから、およそその御名を信ずる者は皆神の王国に救われるのである。」(25：12—13)ニーファイはまた、救い主の地上でのみ業がニーファイ人にまで及ぶことに触れ、主が現われて彼らを癒したまい、3代にわたって平和が続くであろうと約束しました。(26：9参照)彼はまた、救いに至る道——ニーファイの言葉では「キリストの教え」(31：2)——について詳しく語りました。主の弟子は、御子の模範に従ってバプテスマを受け、聖霊を授けられなければならないこと、それから希望と愛をもって強く進み、最後まで、すなわち天父が「〔汝は〕永遠の生命を受け

る」と仰せになる日まで耐え忍ばなければならないこと(31：5—20参照)などを語ったのでした。

回復の証 ニーファイは、主が「墮落して迷っている有様から、またまたその民を救い出す御業を始めたもう」(25：17)時を先見しました。イエス・キリストは末の日にご自身を世に現わされます。(26：12—14参照)そして「黒人と白人、奴隷と自由人、男と女の区別なく……異教徒〔も〕ユダヤ人も異邦人も」(26：33)すべての人はみもとに行くことができるのです。

ニーファイが成し遂げた偉業のひとつに、古代の人々によって書かれた神の啓示を編さんしたことが挙げられます。その書物は一部が封じてありました。(27：6—10参照)証人の原則がこの書物にも当てはまることは、次の聖句によって知ることができます。「その書物を授けられる一人のほかに三人の見証者が神の能力によってこれを見ることができ、そのほかに誰一人これを見ることができない。……このほかにその書物を見ることのできる者は、ただ神のみこころに従って世の人々にその言葉の証拠を立てる数人の者にかざられる。」(27：12—13)

証人の原則は、末日における神の証にも当てはめることができます。「二つの国の人が証拠を示すは、われが神なること……を汝らに証明するなり。」(29：8)聖書だけでは不十分であり、主はモルモン経を世に出すことによってご自身のみ言葉を確立されたのです。(29：3—7, 12—13参照)

ニーファイが示したように、私たちは霊的な事柄を証明するものなしに放っておかれているわけではないのです。主は、聖霊の証を含めて、私たちに多くの証人と与えてくださっており、それによって私たちは、ニーファイ第二書に記された証に自分たちの証を加えることができるのです。□

* ブルース・A・バン・オーデン兄弟——ユタ州プリガム・ヤング大学第2ステーキ部高等評議員。プリガム・ヤング大学教会歴史学助教授。

今までにあなたは問題にぶつかって、どうすることもできないと感じたことはないでしょうか。天父はあなたを愛し、直面している問題をあなたが解決できるように助けたいと願っておられます。どれほど心配しているか、あなたに知らせたいと思っておられるのです。しかしそのためには、みずから天父と話し、その答えに耳を傾けなければなりません。

祈りは、きわめて個人的な天父との意思疎通の方法です。主の祈りの中には、私たちがどのように祈ればよいかが、示されています。(マタイ6:9-13参照)基本的な指針は次のとおりです。

1. キリストが「天にいますわれらの父よ」と言われたように、神を敬う呼びかけの言葉で始める。
2. 天父への愛、尊敬、感謝の気持ちをお伝えする。

キリストは、「御名があがめられますように。御国がきますように。みこころが……行われますように」と言われました。

3. 必要な助けを願う。「わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください」というキリストの言葉から、私たちの生活に主の助けを願うのは、良いことであるとわかります。

4. 罪、過ち、弱さを赦してくださるように願う。「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください。」

5. 謙遜に、深い感謝と礼拝の気持ちを持って、祈りを終える。キリストは、「王国と力と栄光は永遠にあなたのもだからです。アーメン」(欽定訳マタイ6:13)という言葉で祈りを終えられました。私たちはイエス・キリストのみ名によって祈りを終えますが、これはキリストの贖罪によって、私たちが天父のみ前に祈れるようになったからです。

もちろん、もっと多くの事柄について祈ることもできますし、緊急なときには、もっと少なくてもいいのです。もしも、どのようにして天父と話をすればよいかわからないときは、それができるように助けを求めてみてください。きっと答えが与えられます。

答えを受ける時間を取ってください。天父に話をするとき、天父が答えられる時間を取っていますか。急いで立ち上がる前に、耳を傾けてみてください。天父があなたに受けてほしいと願っておられる導きに、もっと気づくようになるでしょう。

次に挙げるのは、祈りを効果的にするためのアイデアです。

真心から、気持ちを打ち明ける 祈りは、あなたの心の思いを、愛ある天父に打ち明けるひとときです。それで覚えた表現を繰り返し使うべきではありません。

瞑想する 静かに熟考し、みたまの導きに耳を傾けることも祈りの一部です。

礼拝する 祈りは、神をたたえ、祝福を数えあげ、感謝を表わす時です。

問題を解決する 祈りの中で、天父に自分の抱える問題をすべて話すことができます。それによって、永遠の観点からその問題を見られるようになるのです。

学ぶ 祈りは、主から光と教えを受ける機会にもなります。

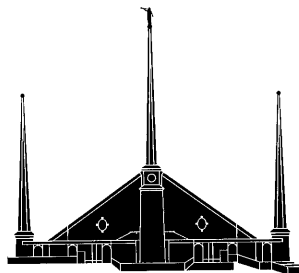
守りを得る 祈りによって、正しいことを選び、むずかしい問題に立ち向かう力が与えられます。

自己評価 祈りを通して、主は私たちが自分の成長を評価し、弱さを明らかにし、それを強さに変えていけるように助けてくださいます。□

祈りの方法



永 遠



リチャード・M・ロムニー

末日聖徒の青少年は、尽きることのない祝福に共にあずかるために、スカンジナビア全域から続々と集まってきます。

森はひっそりと静まりかえり、夜ともなると一層その静寂の深まりを感じさせます。涼しいそよ風が賛美歌の静かな歌声のように松の木立を吹き抜けていきます。まるで時の初めからこの森が聖なる場所だったかのようです。森の中に切り開かれたこの場所が、世の喧噪から逃れさせてくれるのです。

ここに集まった若い男性と若い女性たちは、森の静けさに劣らぬ敬虔さに包まれているようでした。

話し声はひそやかながら、喜びにあふれています。彼らは主の宮居であるスウェーデンのストックホルム神殿で数時間の奉仕を終えたばかりなのです。

「神殿では聖さを感じ、うれしくなりました」とトール・アンドレ・エラック(16歳)は言います。

リリアン・ニールセン(17歳)も同じ意見です。

「神殿の中では、みたまの力でみんなが証を強めます。死者のためにバプテスマを受けるときは、教会の会員になるかもしれないだれかのためにしているのだと感じます。これはとても力強い伝道なのです」と彼女は言います。

このグループは、ノルウェーのオスロスターキ部オスロ第2ワード部の若い聖徒たちですが、このような青少年はスカンジナビア全域から神殿にやって来ます。フィンランドの遠くの島やデンマークの港町、そして神殿から車で数分のストックホルムの町中からも。

「私はきょうで2度目です」と12歳のシャルロット・マリエ・ルンドクビストは教えてくれました。

「最初の神殿訪問はスターキ部全体で来たのですが、私は45人の人々のためにバプテスマを受けました。終わ

ってから神殿長のお宅でファイヤサイドがありました。神殿長は体がまひした人の話をしてくれました。自分の身の回りのことができない人は、どうしても人の世話にならなければなりません。私たちが神殿で行なっていることも同じです。霊界にいる人たちは自分でこの儀式を受けられないのですから、ほかの人に頼るしかないのです。」

クリスティーナ・アルスネス(13歳)はこう言います。

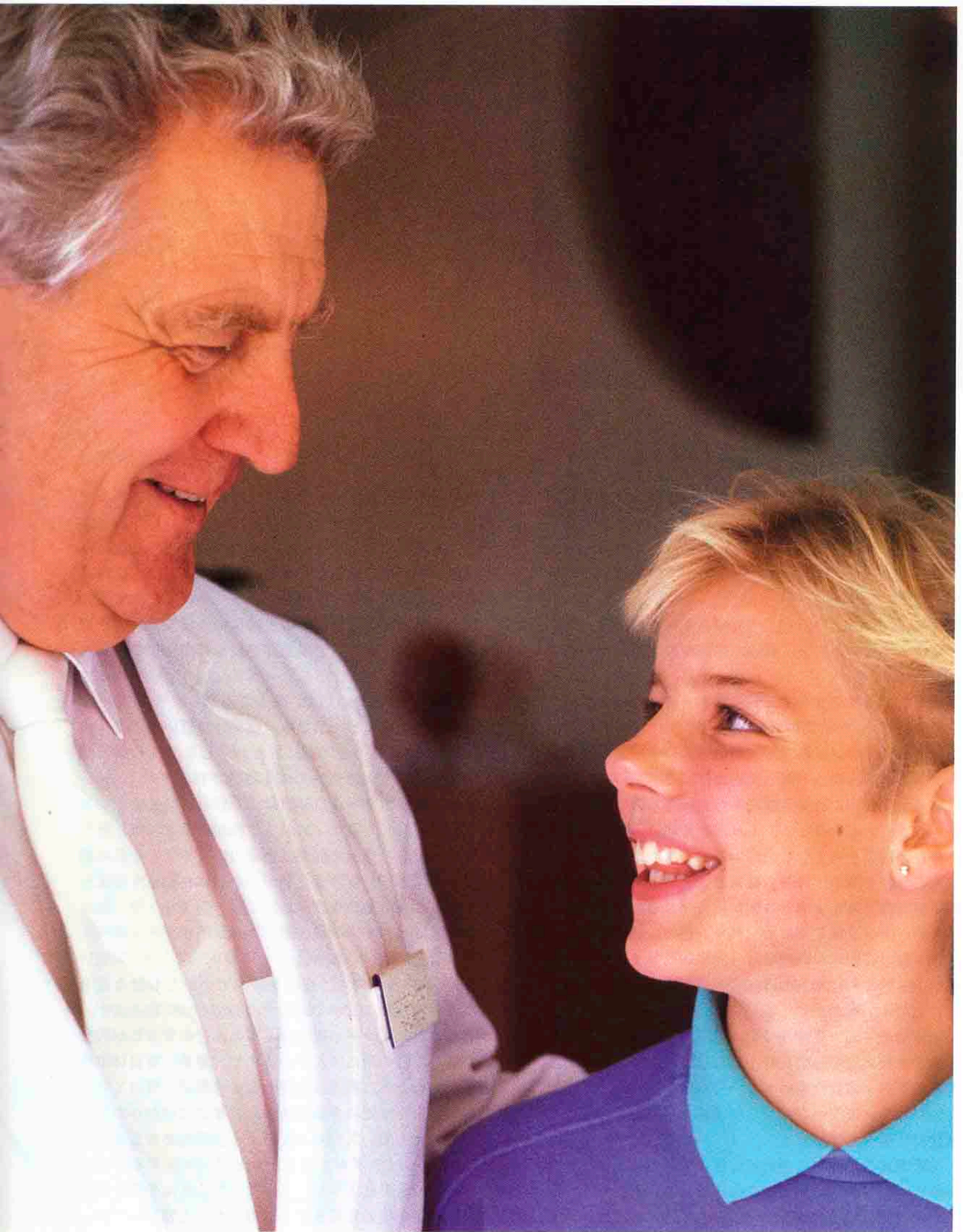
「彼らはだれかが身代わりの儀式を受けてくれるのをじっと待ちながら私たちを見ているような気がします。私がある立場で、だれかが身代わりの儀式をしてくれるとしたら、本当に感謝するだろうと思います。」

ストックホルム神殿の尖塔は高くまっすぐにそびえ、周りの木々の緑色や茶色に映えて白く輝いて見えます。神殿が影を落とすこの場所では、伝道や家族、主の約束や永遠のことなど、聖典で言う永遠に続く事柄についてごく自然に話し合えるのです。(教義と聖約79：1参照)

神殿の恩恵に浴するのには遠くから来る人だけではありません。神殿のすぐ近く、ベステルハニングの小さな町に住むロイ・グーナルソン(17歳)は、神殿がこの町の大きな祝福となっていると話してくれます。

「ぼくは神殿のそばをバスで通るんです。もちろん献

スウェーデン・ストックホルム神殿で死者のためのバプテスマを受けた後、ジョージ・ダムステット神殿長と談話するシャルロット・マリエ・ルンドクビスト。





神殿に来る若い人々は、自分たちは大切なもの、永遠に続くものの一端を担っていると感じている。

堂式の前には大勢の人が神殿を見学しましたが、今でも毎日のように話題に上ります。小さい子供たちの間でも神殿を初めて見る人は決まって『わあ、なんてきれいな建物なんだろう』と感嘆の声を上げます。そしてぼくが神殿に詳しいと知ると、もっとよく知りたがります。『あれは教会なんですか』とか、『あそこでは、どんなことをするんですか』と。救いの計画を説明する絶好のチャンスです。』

セシリア・イエンセン(16歳)はこう言っています。

「神殿はいつも私に福音や救いの計画について思い出させてくれます。私のワード部の建物は神殿と同じ敷地内にあるので、ワード部の活動に行くたびに神殿を間近に見ます。ときには神殿結婚をしたばかりのカップルを見かけることもあります。これだけ神殿の近くにいてその存在の意味を考えない人がいるのでしょうか。」

そのとおりです。神殿の影響は大きく、より活発な信仰生活に導くみたまの力を皆が強く感じるのです。ベステルハンゲワード部のエングマン監督の話によると、ワード部の青少年の活発率は100パーセントに近く、現在ワード部からは6人の専任宣教師が伝道に出ているとのこと。監督はこう言っています。「若い男性全員が伝道に出ることをワード部の目標にしています。」月曜から木曜までの毎朝6時半には12人のセミナーの生徒が欠かさず教会に集います。

同じ建物に集うハンデンワード部でも青少年は同様に活発な活動をしています。

神殿職員の多くがこの地域に住んでいるため、ベステルハンゲでの末日聖徒の存在感は大きいものがあります。末日聖徒は、全人口の1.4パーセントを占め、地方

自治体や都市計画、政治団体にも影響力を持っています。若い人たちも、学校で自分だけが教会員ということではなく、ほとんどのクラスには2、3人の教会員の友達があります。学校の教師は教会の標準を知っていて、末日聖徒の理想に対しても寛容な態度をとってくれています。

しかし、町に神殿があることは単に末日聖徒について人々に知ってもらうこと以上に恵みをもたらしてきました。

「神殿がここにあるので、私は落ち着いた気持ちになります」とソフィア・シブーラ(14歳)は言います。

「毎日のいろいろな問題に埋もれてしまうことなく、永遠について考えさせてくれるからです。」

アニカ・リトミール(16歳)はこう言っています。

「神殿を見ながら、いつかここで結婚するのだと思うんです。神殿で交わす約束は主との約束です。そして神殿で学ぶことは、変わったりいつの間にか消えてしまったりすることはありません。」

「神殿の中にいるのが好きです」とダビッド・イールハマー(15歳)も言います。

「落ち着いた気持ちで聖典を読んでいると余計なことはみんな忘れることができます。心が本当に和みます。」

ベステルハンゲの町では、ほとんどの青少年が教会から5分以内の所に住んでいるので、容易に集会に集うことができます。教会は金曜の夜には毎週とっていいほど若い人たちでにぎわいます。ときにはほかから神殿にやって来る若い人たちと交流する機会もあります。

「ぼくはイエテボルイの子たちとダンスをするのが好きです。でもそれよりも、こんなにたくさん青少年が主の家に集まるのを見ることの方がもっと楽しいです。」

神殿での仕事はパトリック・バルクに喜びをもたらしただけでなく伝道資金の準備にもなった。



教会の力強さを感じるからです」とポール・エングマン(16歳)は言います。

ジョージ・ダムステット神殿長も神殿で奉仕する信仰深い青少年について喜んで語ってくれます。中には長い時間をかけて神殿に来る人がいます。また多くの人は、経費の節約のためにユースホステルに宿泊します。そして大抵の人が家路に就く前に少なくとも2度バプテスマの儀式に参加していくということです。

「フィンランドから来た青少年の貸し切りバスに招かれて乗り込んだことがありました」とダムステット神殿長が言います。

「彼らが声をそろえて『神の子です』を歌うのを聞いて涙が出て仕方ありませんでした。言葉は理解できなくても、みたまを強く感じました。神殿にいと教会の将来が見えるようです。神殿にやって来るこの若い人々がその将来を担っているのです。彼ら自身も大切なもの、永遠に続くものの一端を担っていると認識しています。」

ダムステット神殿長が神殿の外へ出てきました。澄んだ夜風が涼しいこの森で、オスロから来た聖徒たちと語り合うためです。

「ちょっと寒いですが、心の中はまだ温かい気持ちでいっぱいです」とユーリー・カーリーネ・レネッスンド(17歳)は言います。

ここに集まっているほかの若者と同じように、ユーリーも知っているのです。この温かさが長く心に残るものであることを。□

神殿の仕事

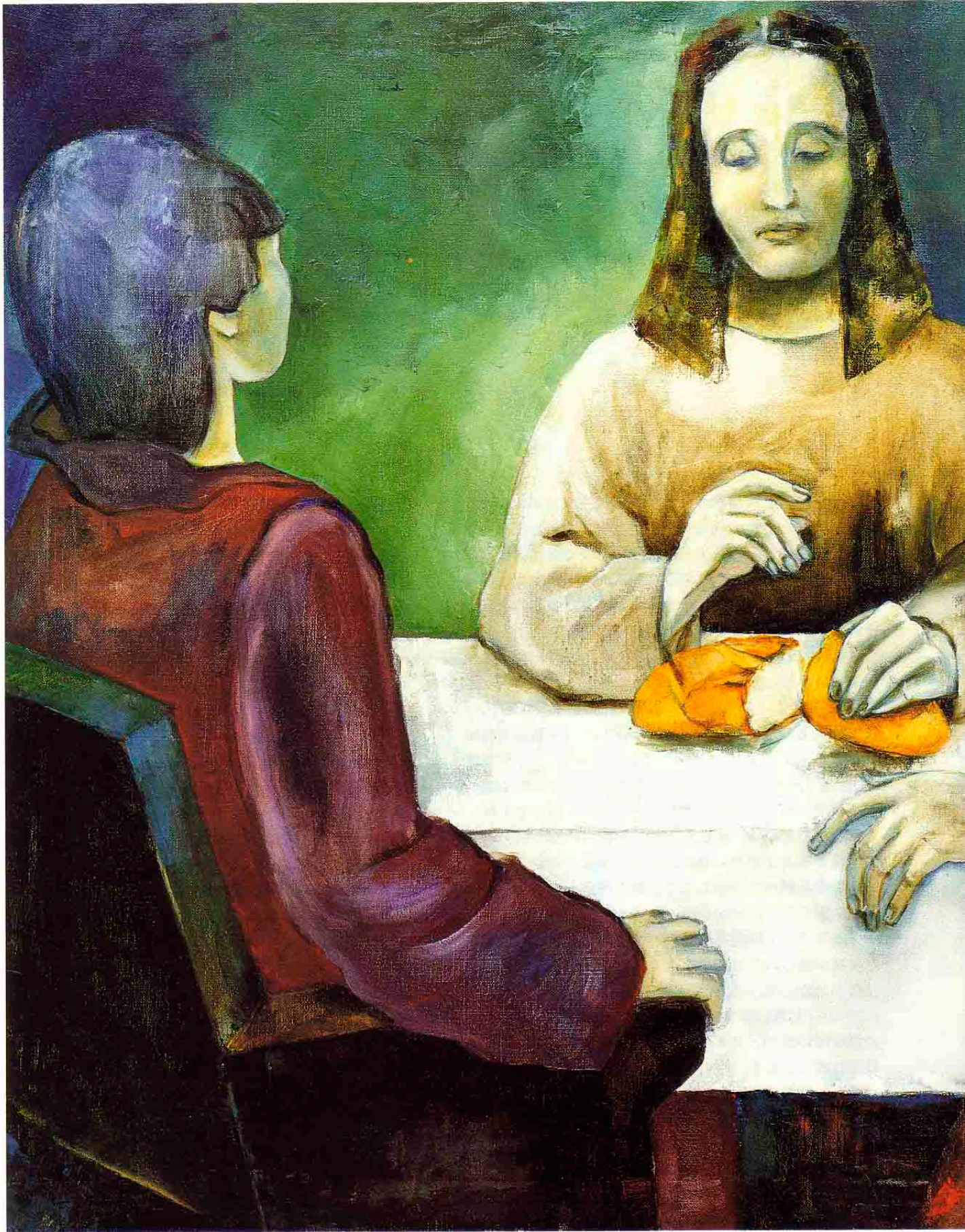
若い人が伝道資金を準備する方法は様々です。パトリック・バルクは「理想的な職場」を見つけたと言っています。

18歳のパトリックはハンデンワード部で新しく長老に聖任されたばかりですが、もう4年間もストックホルム神殿の庭園の管理人、また園芸家の見習いとして働いてきました。芝刈り、木々の手入れ、花の世話などを、管理主任の指示に従って行なっています。「これは単なる仕事以上のものです」とパトリックは言います。「教会外の友人や観光客とも話す機会ができ、もう何冊もモルモン経をプレゼントしました。神殿の敷地を訪れる人にくつろいでもらえるように頑張っています。そのためにも敷地そのものが整えられているように努めています。」

パトリックは、職場としても神殿はすばらしい所だと言います。「穏やかで平和な雰囲気が、いつもここにあるからです。」

パトリックは、スウェーデンの若者の中で宗教への関心が高まっているように思う、と言います。早く伝道に出て、ほかの国でも宗教への関心が同じような高まりを見せているのか確かめてみたいと言っています。□

注——この記事が書かれた後、パトリックは宣教師として召され、現在アイダホ州ボイシ伝道部で伝道中である。



聖典に テーマを求めて

第2回国際美術コンテスト

グレン・M・レオナード

聖典の物語を描写した油彩画，見事な仕上がりの陶器，キリストの生涯からテーマを採ったししゅう，全世界に広がる神権者の群れを描いたキルティング——これらは，教会歴史美術館が主催した第2回国際美術コンテストに出品された作品の，多彩さを物語っています。

1990年2月，聖典にテーマを求めた芸術作品の公募が美術館から発表され，42カ国に及ぶ800人以上の末日聖徒の芸術家たちがそれにこたえました。彼らはまず，聖典に靈感を求めました。次いで，様々な芸術様式，表現媒体を利用して，聖典のテーマから得た魅力的なイメージに形を与えたのです。

6人の審査員によって選考された200点余りの作品が，ソルトレークシティの同美術館に展示されることになりました。このうち20人に，ある篤志家の寄付金から賞金が授与され，さらに何人かの作品は，同じ基金から「買い上げ」られました。才能豊かな初心者の作品から熟達した芸術家たちの作品までが，美術館内の4つのギャラリーを飾りました。作品はあらゆる文化圏の伝統を反映した芸術様式に及んでいました。出展作品の質の高さ，末日聖徒の聖典から採った登場人物，原則，物語，教えなどの表現に見られる芸術家たちの創造性に，審査員たちは喜びを表明しました。

「4年前に行なわれた最初のコンテストに比べると，芸術的な質が向上しています。また，宗教的な題材を創

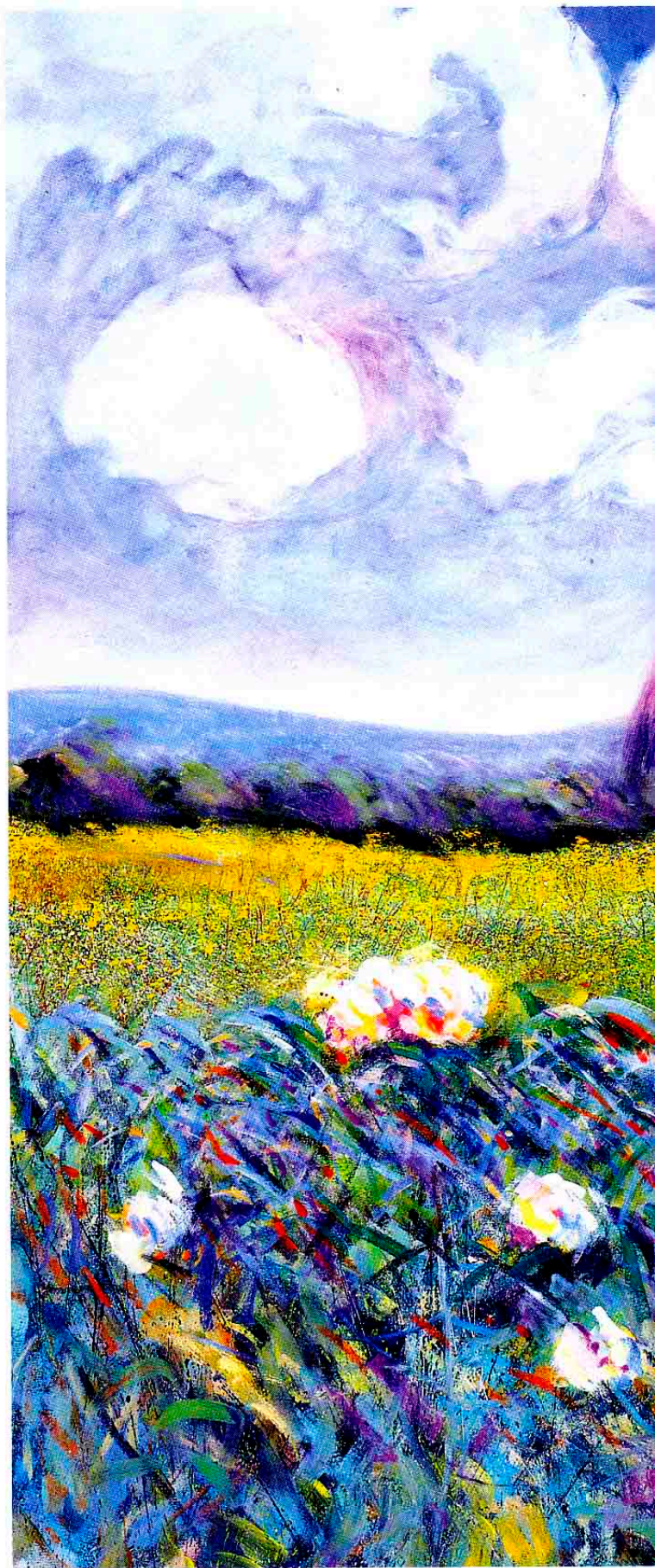
「エマオの弟子たち」画布・アルキッドと油彩
フランス・イゼール県ビービャ
マリー・フランス・ギニー作



「イエス・キリストの苦悩」木彫レリーフ
 ブラジル・サンパウロ
 セバスチャン・ドリバウ・ロドリゲス作
 「それゆえに、あなたがたは行って」
 画布・アクリルと油彩
 チリ・サンチアゴ、ホセ・R・リベロス作

造的に表現しようという真摯な熱意が感じられます。」
 こう語るのは、美術学芸員であり審査員のひとりでもあるロバート・デービス兄弟です。「様々な文化的背景を持つ大勢の芸術家たちから作品が送られてきましたが、皆同じ福音を信じています。絵画、彫刻、キルティング、手芸、陶芸、そのほかの芸術作品にはっきりとそれを見て取ることができます。」

大勢の応募者たちは、次のような様々な福音の原則に対する自らの証を出展作品に託して、チャレンジに取り組みました。贖罪、祈り、バプテスマ、奉仕、平安、真理などはその一例にすぎません。創造、アダムとイヴのエデンの園からの放逐、ヨセフの長そでの着物、ヨブの試練、エステルのお物語、最後の晩餐、ゲツセマネの園における救い主の試練、ヨハネの黙示などの聖書の出来









「アロンと金の子牛」ししゅう
スウェーデン・ストックホルム
スベン・スペルスベルグ作

「最初の示現」リノリウム版画
ユタ州ソルトレークシティ、ウォーレン・ルーク作

事や物語に題材を求めた人々もいます。さらに、リアホナ、リムハイの民、自由の旗、ニーファイ人へのキリストの訪れ、金版とモロナイなどモルモン経からテーマを採った人々もいました。近代の聖典からも、最初の示現、モルモン経の出現、伝道活動、カートランド神殿におけるキリストの訪れ、開拓者の旅などのテーマが採用されています。

審査員であり、美術館の美術学芸員でもあるリチャード・オーマン兄弟は次のように語っています。「聖典のテーマの採り上げ方が模範的であり、芸術的な完成度が高い作品を入賞作品に選びたいと、私たちは願っていました。インドネシアのろう染め、バティックはバティックとしての芸術的完成度という観点から、チリの油彩画はラテンアメリカ絵画の観点から、ユタ州のキルティングはキルティングとしての標準にかんがみて選考したのです。しかし、



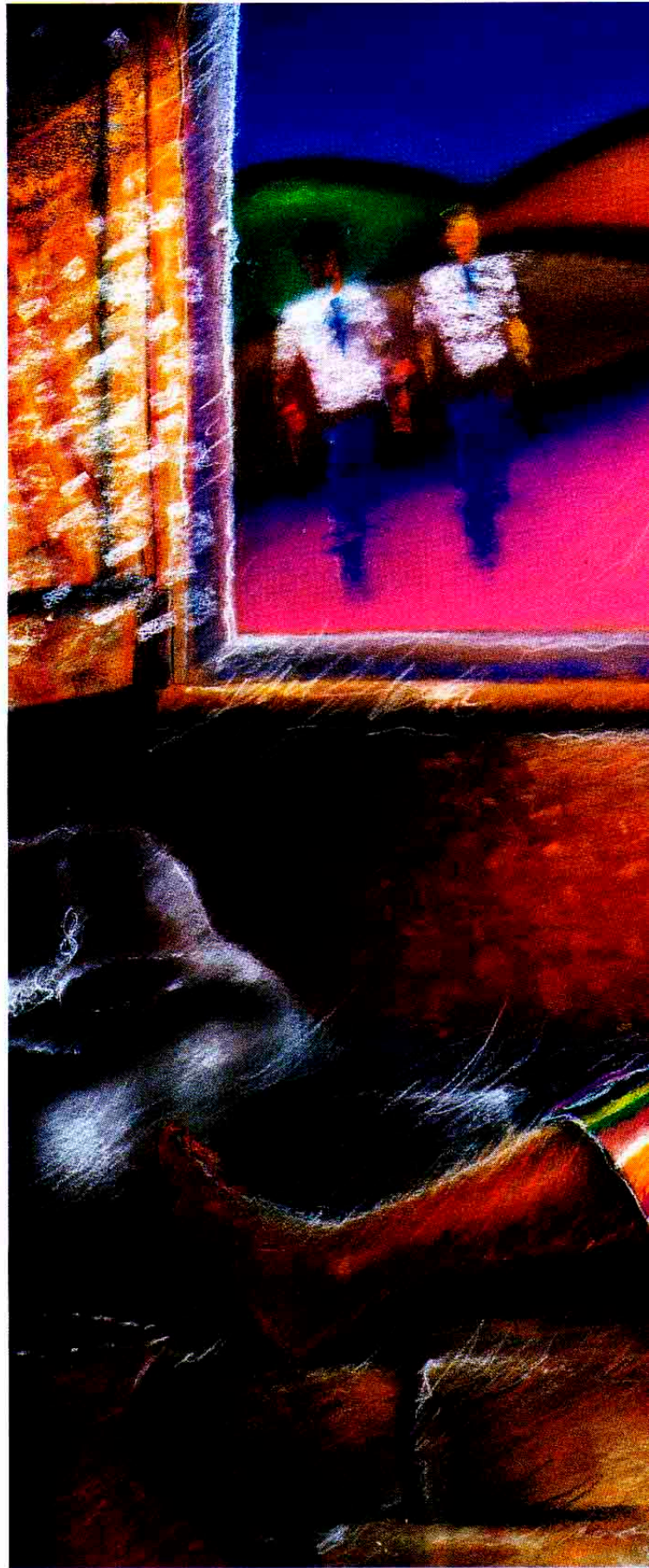
「創世記第1章」陶器、
カリフォルニア州フレズノ、C・ティーン・ドレイパー作
「誓約を受ける備え」板絵・オイルパステル、
グアテマラ・ラスロサス、エリック・ドアルテ作

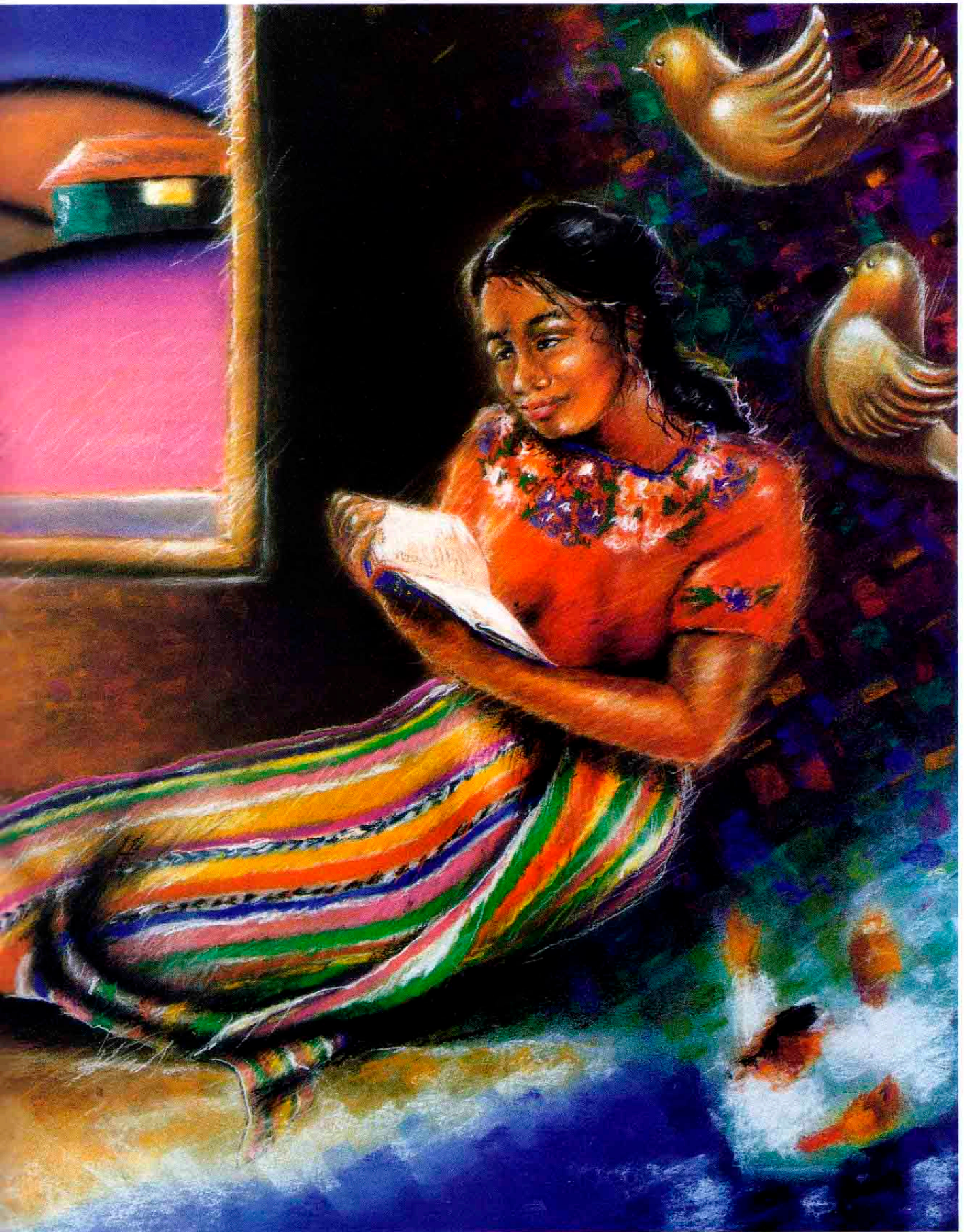
た。」

確かにこのコンテストは、末日聖徒の芸術家たちに宗教芸術を通して自らの信仰を表明し、彼らの才能によって教会全体に利益がもたらされるように励ましを与えるものです。□

今月号に掲載する作品のほかに、今後も、裏表紙の見返しや様々な記事の中で、コンテストのそのほかの作品を紹介していく予定です。

* グレン・M・レナード兄弟——教会歴史美術館館長。





「私はモルモンです」

エセニア・メネセス・ファーマ

入学試験に備えて、私はそれまで長い間必死で勉強してきました。この学校は、地元ペルーのチクラ一ヨにあり、私は初等教育過程に進むことを望んでいました。自分の持っている音楽や踊りの才能を生かして、子供たちを教えられるようになりたかったのです。どうしてもこの夢を実現したかったので、高校卒業後、3カ月の休暇全部を受験勉強に充てました。

チクラ一ヨにある多くの優秀な学校と同様、私が志望していたこの学校もカトリック系でした。しかし、幼稚園から大学までの教育過程を有するこの学校にはすでに5歳の弟が通っていました。そのため、母も私も、たとえ私が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であっても、入学することに何の問題もないだろうと安心していました。

ついに入学試験の日がやって来ました。最初に実技試験があり、子供たちと一緒に歌ったり遊んだり踊ったりしました。

その後、試験官による個人面接がありました。私は面接室に入る前にお祈りをしました。3人の試験官から私の才能と経歴についての質問が始まりました。私はチクラ一ヨのマニシパルバレー団に属していること、ピアノは12の習熟段階を修了したこと、マレネラとウィノの民族舞踊の大会で優勝したことなどを話しました。

それから試験官たちから、どこの教会に属しているかを尋ねられ、「私はモルモンです」と答えました。試験官たちはとても驚いているようでしたが、私は心に平安を感じていました。続いてカトリック教会以外の宗教の人は入学することができないのを知っているかと尋ねられました。私は、「神とイエス・キリストが生きておられることを知っているのですから、私も皆さんと同じクリスチャンです」と答えました。それから、「私は自由意志の大切さを信じています。そして自分は真理を選んだのだと確信しています」と言って話を終わりました。

試験官たちは私をじっと見ながら、宗教の違いのためにどうしても入学は認められないと告げました。そして、自分が言ったことを後悔していないかと尋ねました。そのとき、「わたしは福音を恥としない」（ローマ1:16）という使徒パウロの言葉が心の中に浮かんできました。やがて、退室するように言われました。

すべての夢が目の前で粉々になったような気がしました。どれほどこの機会を待ち望んでいたことでしょうか。また、夢を実現できるようにと、母があらゆる犠牲を払って助けてくれたことも思い返しました。しかし、それでも教会に対する私の証は揺るぎませんでした。そしてそれは学校に入学するよりも、はるかに価値あることだと感じていました。

家に帰ってから、私がそのことを母に話すと、すぐに母は学校へ出かけて行きました。そこで母は教頭に、小さな弟が入学を許可されているのにどうして娘が不適格とされるのかを尋ねました。返ってきた答えは、5歳のルイス・エンリキューには自分の信じていることに対する責任はないが、16歳の私には責任があるということでした。

続いて母は、試験官たちに掛け合ってくれました。教会について、そして私たちが神とその御子イエス・キリストを信じていることについて話したのです。また、1983年に教会員になってからのいくつかの経験や、福音によって私たち家族がどれほど変わったかも話しました。試験官から「心配しないでください。娘さんの件については、検討しますから」と言われ、母は家に帰って来ました。

母は私に「主を信頼するのよ。そうすればすべてうまくいくから」と言ってくれました。そして母と一緒に断食を始めようとも言ってくれました。

午後遅くなってから、私が実技試験に合格したという知らせが入りました。次は、翌日の筆記試験に何としても合格しなければなりません。

私は夜を徹して勉強しました。翌日の早朝、試験を目前に控えて、私は信仰をもって熱心に祈りました。そして、試験は意外にやさしく思えました。数人の生徒に交じって試験を早く終えたくらいです。私は母とお婆の待つ我が家へと急いで帰りました。私たちはその午後、何時間も発表を待ちました。試験の結果が掲示板に張り出されることになっていたのです。

夕方になり、私は結果を見るために学校へ出かけました。途中、ずっと祈り続けました。学校に着くと、合格者のリストを目で追って行きました。そして、自分の名前を見つけたのです。主は私たちの断食と祈りに答えて

くださったのです。

今、私は新しい学校で忙しい毎日を送っています。そしていつも聖典を持ち歩くようにしています。私の大好きな聖句はマタイによる福音書第5章16節です。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」

私は、証を覆い隠すべきではないと今まで以上に知ることができました。いつでも胸を張って「私はモルモンです」と言えるようでありたいと思っています。□





ゲッターからの 祈り

デビー・パース

1964年10月26日、ジャマイカのキングストン市で双子の出生が届けられました。それが、私の人生の出発点です。私は両親を知らないまま、祖母に育てられました。市の中の「ゲッター」と呼ばれる貧困地区にある、ひと部屋だけの丸太小屋が、最初の住まいでした。

成長するに従って、ゲッターのひどい貧困の中で、祖母が私たちの生活を支えるために働くことがいかに大変かがわかるようになりました。祖母は、家族6人で寝ている古いぼろぼろのベッドから、毎朝5時に起きていました。そして私たち子供を起こし、一緒にれんがを探しに行きました。集めたれんがでかまどをこしらえてパンを焼き、近所の人に売るのでした。祖母にとって毎日が苦労の連続でしたが、いつも笑みを絶やさず幸せそうでした。

丸太小屋はたくさん集まって集落をなしていましたが、そこには水道が通っていませんでした。ただパイプが1本あり、皆そこからバケツで水をくみ、頭の上に載せて小屋まで運ばなければなりませんでした。そのパイプは、ぬかるんだ場所にあり、雑草に覆われていました。子供たちはそこを遊び場にしていました。ゲッターの子供たちは服も着ずに、いつも泥だらけになっていました。ト

イレやお風呂はみんなが使いやすいように集落の中央にありました。

自尊心の欠如と貧困からの逃げ道として、不道徳に走る人が周りに大勢いました。そのためゲッターでは、人口がますます増え、過密化していくのです。ほとんどの人は働こうとせず、政府の食糧援助に頼っています。良い衣服やそのほかの品々を得ようと、しばしば盗みをはたらく人もいました。

私の親友は路上で生まれました。彼女の母親は、そのときわずか14歳でした。母親の生き方に倣うかのように、彼女自身も13歳で最初の子供を生んだので、彼女の母親は27歳で祖母になってしまいました。友人は19歳のときに3人目の子供を生みました。3人目のボーイフレンドと別れてから、母親のもとへ移り住みました。彼女に3人、母親にも6人の子供がいました。このため友人は20歳の誕生日を迎える前に、7歳以下の9人の子供の世話をすることになってしまったのです。彼女の人生を見ていて、私自身はもっと良い人生を歩みたいと強く思いました。私は家庭を持ちたいと望みました。私はゲッターから離れなければならないと感じたのです。

私の祖母は、夜寝る前に祈ることを教えてくれました。しかし、だれに祈っていたのでしょうか。それは、どのような人なのでしょう。どこから来るのでしょうか。答えられない質問ばかりでした。私は、まるで希望の光を失って荒れ果てた暗い世界にいるかのようでした。

この質問を解き明かそうと決心して、所属していた教会に足を運ぶようにしました。祖母がそこへ行けば神様を見いだせると言ったからでした。しかし、あまり助けにならないばかりか、余計に混乱してしまいました。そこではイエス・キリストと聖霊とは、神の内に入り、また神とひとつであると教えていました。

私は多くの様々な教会に集いました。聖書やイエス・キリストの生涯について学ぶときに、特別な気持ちを感じました。

この気持ちが、キリストや聖書、聖霊、神様に関係していることはわかりましたが、まだ頭が混乱していました。主を信頼し、祈り始めました。それでも何か物足りないのです。聖書を読んでいると、良い気持ちを感じるものの、その気持ちを絶えず持ち続けることができませんでした。

ある教師から、「その気持ちを維持するためには洗礼を受けることです」と言われて、私は受けました。しかし、何も変わりませんでした。そのうち、どの教会も同じように思えました。そこで、家で自分なりに勉強することにしました。主のみもとへと導いてくれる正しい道を見いだすことができるように、私は熱心に主に祈り求めました。そして主は私の祈りを聞き届けてくださいました。

私はある若い男性と知り合い、友達になりました。それから10カ月の間、宗教以外の様々なことについてお互いの思いや考えを分かち合いました。ある日、彼が聖書を持ち歩いていることに気づき、彼が教会に行っているのかどうか、そして何という教会なのか、尋ねてみました。それは長い名前です。「何々聖徒イエス・キリスト教会」だと言われました。私はそのときは、少しも興味を覚えませんでした。何だか私の考えていたものとは違う教会のように聞こえたからです。

後になってこの友達は、自分は2年間、外国で主に仕えるつもりであると話してくれました。私はそのとき、彼は牧師になるつもりなのだろうかと思いました。彼が行って初めて、彼の教会について気になり始めました。そして私は集会所を探し始めました。

それから数カ月かかって、やっと見つけることができました。いえ、それ以上のものに巡り会えたと言うべきでしょう。集会所に足を踏み入れた途端、喜びや平安、慰め、確信、そして幸せがひとつになったような、言葉では言い表わせない気持ちを感じました。故郷に帰ったような気持ちとでも言うのでしょうか。私の質問は、今全部答えられたのです。

教会員たちは心から歓迎してくれました。最初、ちょっとおおげさに思えて、そのような歓迎を受けるのをためらいました。私は、あれほど大勢の人たちと接することに慣れていなかったのです。彼らは、私のことを知っているいなかかわらず、歓迎してくれました。集会の終わりには、穏やかな気持ちに満たされ、心の中にささやく言葉が聞こえました。「デビー、ここが求めている所です。彼らが、あなたの探していた人々です」と。

振り返ってみると、ゲットーでの生活はいかに大変なものだったかがわかります。人々は間違った選択をして、より困難な思いをしていたのです。ほとんど進歩する機会がありませんでした。でも私は、生きるうえで本当に価値あるものを求めていたのです。家族の何人かと共にゲットーを出る機会が訪れたとき、これはチャンスだと感じ決断しました。

幼なじみの多くの少女たちは、決してゲットーを出ようとしませんでした。心からの望みと主が私を導いてくださるという確信がなければ、私もゲットーを出ることはできなかったでしょう。私はゲットーを後にして、バプテスマを受け、教会員となり、教育を受け、伝道の召しを果たす機会にも恵まれました。私たちがどこにいても天父はすべての人々を愛しておられ、私たちの置かれている状況をご存じです。主はすべてのことに関して、私たちが真の幸福を見いだすように願っておられるのです。□



「人をすなだる者」

教会歴史美術館主催の「第2回国際美術コンテスト」における800点を超える応募作品のひとつ。末日聖徒の宣教師を描いたこの油彩画は、オーストラリア、ブリスベーン市のメアリー・アン・ライト姉妹の作品である。(本誌「聖典にテーマを求めて」p.36参照)



PHOTOGRAPH BY TED CLARK

「汝らが必ず受くと信じて、わが名によりて御父に乞い求むるものは、その正当なるものなる限り、すべて汝らに与えらる。汝らの妻子が祝福を受くるよう、たえずわが名によりて家族の祈りを御父に捧げよ。」(III ニーファイ18：20—21)(本誌「祈りの方法」p.31参照)

祈り

アジア北地域会長会第二副会長

サム・K・島袋

イエス・キリストは、導きと恵みを施されたわずか3年の間に、多くの偉大な教えを残されました。天父に祈ることの必要性和重要性もそのひとつです。祈りは確かにすべての人に開かれたすばらしい機会と言えます。永遠の父なる神と自由に話すことができるからです。昼夜を問わず、いつ祈っても、また何度祈っても費用はかかりません。「祈り中毒」になって、知恵の言葉や主のほかの戒めを破っているのではないかと考えたり、自由意志の使い方を間違っているのではないかと思ったりする必要はありません。天父は私たちに、祈りを通して絶えずご自身を呼び求めるように望んでおられるからです。祈りによって私たちが天父に近づくならば、天父も私たちに近づいてくださるのです。(教義と聖約88:63参照)

祈りは、一方通行の袋小路のようにむなしなものだと考えている人がいたら、私たちの主、イエス・キリストに心を向けてみてください。きっとそのような疑いは無用で、また消し去るべきものだという確信が得られるでしょう。

次のような場面におられるイエスを心に描きながら、畏敬の念を抱き、心が高められない人があるのでしょうか。

弟子と、すべての人に祈りの方法を教えておられるイエス。(マタイ6:6-9参照)

ただひとり、天父に祈るために山へ登られるイエス。(マタイ14:23参照)

信仰を持って祈り求めるものはすべて与えられると教えておられるイエス。(マタイ21:22参照)

何事でもご自身の名によって願うな



らば、それをかなえてくださると訓戒を与えておられるイエス。(ヨハネ14:14参照)

サタンの誘惑に遭っても信仰を失わないようにと、ペテロのために祈っておられるイエス。(ルカ22:32参照)

十字架にかかる前に、天父の助けを祈り求めながらも、自分の思いのままではなく、みこころのままになるようにと願っておられるイエス。(マタイ26:39参照)

ご自身が御父の内におられるのと同様に、皆がひとつになれるようにという願いから、ご自分に従うすべての人々のために祈りと、とりなしをされるイエス。(ヨハネ17:20-21参照)

このほかにも数多くの聖句から、祈りが、主イエス・キリストの生涯と使命の重要な要素であったことがはっきりとわかります。もし、祈りがキリストにとって毎日の習慣であったとすれば、主とは違って不完全で、天からの助けととりなしを必要とする私たちが、その模範に従うのは、なおさら重要なことです。

祈りについてイエスが教え、示してくださいましたことについて考えるとき、以下の事柄にも心に向ける必要があります。

自らも絶えず祈り、同様に子供やそのほかの人にも実践するよう教える。

時折、神と自分だけになれる時間を持ち、ひそかな祈りを捧げる。

私たちの祈りが、イエス・キリストのみ名による信仰の祈りとなるように謙遜になる。

信仰が弱まっている人や、終わりまで耐え忍ぶうえで主の助けを必要としている人のために祈る。

病や痛みで苦しむ人のために、苦しみと和らげられるように祈る。しかし、それは主のみこころのままになされるということを常に心に留める。

私たちが主とひとつになれるように、すなわち私たちの心と思い、目標がひとつとなって主に向けられるように祈る。

祈りは、私たちが時間や努力を傾けるべき、最も価値のある、そして心をも満たしてくれる投資と言えます。そして、この投資事業の相手はまことに信頼できるお方であり、投資をするたびに、つまり祈りを捧げるたびに、確実に、高い配当とも言うべき祝福をもたらしてくださるのです。

祈りの気持ちと固い決意をもって、主が与えてくださった次の訓戒に従いましょう。「すなわち、汝らが見たるわが行いを汝らもせよ。」(IIIニーフアイ27:21)私たちが主の賢い僕となり、イエスが授けられた美しい教えのとおり、天父に祈ることができるように願っています。□

新たなかけ橋

末日聖徒による救援活動、
ポーランド農民の自立を助ける

教会を含む多くの団体が、ポーランド農民に畑や牧場、酪農場と消費者を結ぶ手段を探している。

これまで国の農産物市場は首都ワルシャワを中心に調整がとれており、農民は何をどれだけ作り、どこへ売かの指示を受けていた。しかし1989年に政府が交替したことにより、この市場制度は崩壊した。

その結果、生産者と消費者との橋渡しであった仲介人が消滅したのである。教会福祉事業部の救援事業に従事している末日聖徒派遣団の専門家らは、農民が穀類、果物、野菜、乳製品ならびに肉類を、畑や倉庫で余らせておいたり、販売用のワゴン車の中で腐らせたりすることなく、いかに加工し、販売するかについて検討している。

末日聖徒派遣団のおもなメンバーは教会福祉事業部生産配給課長のデニス・R・リファース兄弟、および同課のゲイリー・B・ポーター兄弟とM・プレント・チャグ兄弟である。彼らは、救援事業に携わる私設の非営利組織「テクノサーブ」と共に活動する諮問機関の一員でもある。

合衆国コネチカット州に本部を置くテクノサーブはポーランドの上院議員よりワルシャワ南方約200マイル(320キロ)にあるタルノブジェク地区の農民の援助を求められた。多方面にわたる調査の後、テクノサーブはポーランドの農民を援助する最も効果的な手段は、生産物をより効率よく加工し、市場に出すための供給センターを設立することであるという結論に至った。

テクノサーブの役員は教会の中小規模の食料品生産および加工設備の経験と成果を高く評価し、教会福祉事業部にポーランド、サンドミエシでの供給センター運営のための指示と養成を求めた。

リファース兄弟は次のように述べている。「我々は人材やそのほかの援助手段を通して、この事業に貢献できる機会を喜んで受け入れました。テクノサーブとはアフリカや南米で、ほかの事業も共同で行なってきました。これらの事業と同様、我々は今回もテクノサーブの指示の下に活動しています。我々はポーランドの地元の農業専門家と共に酪農、牧畜、果物、野菜の各分

野の担当を割り当てられています。

ポーランドの農民は大きな変化に直面しています。生産にかかる費用は出荷時の価格を上回っていますし、加工工場は閉鎖され失業者が増加しています。

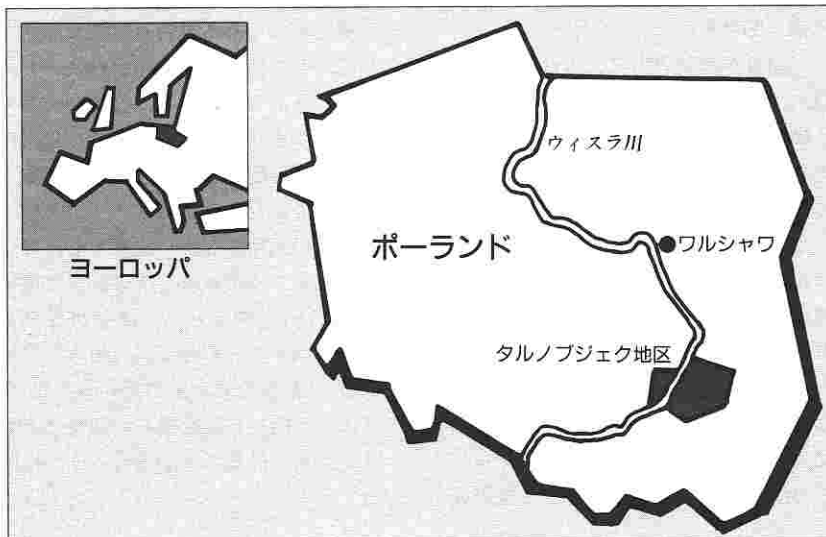
我々は多くの農民に会い、彼らが抱えている悩みを語り合うのを耳にしてきました。ある人はこのように話していました。『以前は牛乳市場を確保していましたが、今はそれもなくなりました。どうしてこんなことになったのでしょうか。牛乳の売り上げ額は市場までの輸送費はもちろん、生産費も賄いきれない状態です。すべてが不安定で、もっと乳牛を買うべきか、今飼っている乳牛を売り払うべきかもわかりません。』

派遣団は農民が非効率的な方法で何とかやっけていこうと努力している姿を目にしてきた。たとえば酪農で生計を立てているタルノブジェク地区のある農夫は、1、2頭の乳牛を手で搾乳している。乳牛1頭の年間の牛乳生産量は2,870リットルである。そのうち3分の2は酪農場で消費、または販売される。そして残り3分の1が市場へ回るのである。このように少量を市場に送り出しても効率は悪く、利益も期待できない。

酪農家らは、牛乳缶を運搬人が地区内に144カ所ある集積地に持って行ってくれるまで、水槽や井戸の冷水の中に保管しておく。集積地に集められた牛乳は地区内に7カ所ある牛乳加工工場へと運ばれる。

リファース兄弟は、ある牛乳加工工場が1日に受け取る牛乳の量は、ソルトレークシティーにある福祉区域が1日に受け取る牛乳の量に相当することを指摘している。しかし、福祉区域は3つの酪農場から牛乳を受け取っているのに対し、このポーランドの牛乳工場は4,000軒の農家から受け取っているのである。また各酪農場の広さも数エーカーにすぎない。そのうえ牛乳は馬車で輸送されるので、消費者の手に届く前に腐ってしまうこともしばしばである。

ほかの農産物についても同じような問題が生じている。チャグ兄弟は次の



ように語っている。「タルノブジェク地区には野菜加工工場が6カ所あります。そのうち4カ所は州営で、残りの2カ所が個人経営のものです。そしてひとつの工場は4カ月間も買い手がつかずにいます。全工場は本来の生産能力以下で運営されており、原材料を購入するのに十分な資本もありません。また大量に抱えている在庫も売るのは困難で、輸出するにも品質が劣っています。」

ポーター兄弟は次のように述べている。「牧畜農家は牛肉、豚肉の加工過程でも市場でも、まったくと言っていいほど影響力を持っていません。多くの工場は閉鎖され、家畜の品質上の競争力も低下し、価格は下がる一方です。」

教会福祉事業部代表はポーランドを7月と9月の2度にわたって訪れた。教会の目指す福祉の方針は自立を促すことであって、教会が問題を解決するのではなく、農民が自分自身の力で問題を解決する方法を見いだす手がかりを求めて現地に赴いたのである。

「テクノサーブも我々と似た方針をとっています」とリファース兄弟はつけ加えている。

こうして、リファース兄弟とチャグ兄弟、ポーター兄弟は、地元住民や農業専門家らと共同で農民に最も密接した問題に取り組んできたのである。

リファース兄弟は次のように述べている。「我々3人がポーランドの人々と共に働いたことはとても良い機会でした。人々はとても親しみやすく、親切でした。援助に対してとても感謝の気持ちを示してくれました。皆将来に希望を持っているのがうかがえました。」

早朝、牛乳受け取り所で彼らを見かけるたびに、その苦悩が伝わってきました。私自身農家の出身で、家族が懸命に働きながらもやり繰りに苦労しているのを見て育ちました。ですから彼らのつらさはよくわかり、とても人事とは思えないのです。彼らの苦悩がいくらかでも理解できるだけに、何とか助けになりたいと願っています。

援助は何もむずかしいものでなくてよいのです。また、複雑な政府機関からのものでも必要ありません。物質的なものである必要はなく、ときに



左——穀物を大きいかま
で刈り入れる農夫
下——農家で作られたキ
ャベツは、近くの町で消
費者に直接売られる



PHOTOS COURTESY LDS WELFARE SERVICES

は励ましの言葉や助言が一番助けになることもあるのです。派遣団として最初心配していたのは『我々に何かできることはあるのだろうか。問題が複雑すぎて我々には手がつけられないのではないか』ということでした。調査を進めるうちに、解決法は基本的な点にあるとわかってきました。必ずしも多額なお金が必要なわけではありません。多くのすばらしい事柄が助け合いの精神からもたらされました。

ポーランドをたつころには、ポーランドの農民を援助する方法はいくらでもあるという自信がありました。ポーランド滞在中、私たちの予言者をはじめとする教会指導者が、教会員だけでなくすべての人類に大きな関心を抱いていることを知りました。私たちは人類という同じ家族に属しているのです。私たちに困っている人々を助ける責任があります。私は信仰箇条第13条の『われらは、……慈善……およびすべての人に善を行うべきを信ず』という

部分についてよく考えました。また教会員であるなしを問わず貧しい人々の世話をしたというアルマの話(アルマ1:26-27, 30)を思い起こしました。救い主が私たちに期待しておられることは、自分の同胞だけではなく、すべての霊の兄弟姉妹を思いやることです。

会員の皆さんが教会の缶詰製造工場へ行くとき、食料品は困っている教会員だけでなく助けを必要としている教会外の人々にも送られることを思い起こしてください。また教会の農場でトマトやほかの作物を収穫するとき、それらの作物によって、困っている人々が助けられることを忘れないでください。また皆さんが教会による救済活動のために献金したお金はデンバーの家のない人々、あるいはポーランドのタルノブジェク地区の農民など多くの人々の役に立っているのです。つまり、主のみこころに従って用いられているのです。」「(「チャーチニュース」1991年10月26日付)

モルモン経の地、 グアテマラが奉献される

「かつての予言者たちの活躍により聖められた」モルモン経の地が、十二使徒評議員会会員のマービン・J・アシュトン長老により、「自由に、妨げられることなく、何の制限も受けずに伝道活動が行なえる」ように奉献された。

奉献の儀式は1991年10月19日、グアテマラシティ神殿裏手の芝生で覆われた場所で行なわれ、アシュトン長老が福音を宣べ伝える地としてグアテマラを奉献した。

近在のステーキ部長夫妻、伝道部長夫妻をはじめとする約110人が、肌寒い曇り空の下、神殿の敷地を集った。式典には、アシュトン長老と妻のノーマ姉妹、十二使徒評議員会会員のラッセル・M・ネルソン長老と妻のダンツェル姉妹が出席し、さらには七十人定員会会員であり中央アメリカ地域会長会会長であるティニー・E・ブルーアートン長老、および副会長のカーロス・H・アマゾー長老と妻のアヤベル姉妹、同じく副会長のホルヘ・A・ロハス長老と妻のマルセラ姉妹も出席した。

1952年には中央アメリカ全体が奉献され、現在それぞれの国を個別に奉献するように努力が続けられている。過

去2年間で中央アメリカ7カ国のうち5カ国が奉献された。

1952年の中央アメリカの奉献は、現在グアテマラシティ神殿の建つ場所からさほど遠くない所で、当時十二使徒評議員会会員であったスペンサー・W・キンボール長老によって行なわれた。

先ごろ行なわれた奉献の祈りの中でアシュトン長老は次のように述べた。「我々は……かつての予言者たちの活躍により聖められた地に立っています。我々は救い主が度々この地方を訪れたことを思い起こします。……」

祈りの中で、アシュトン長老はこの地における伝道の先駆者たちが示した勇氣に感謝を述べた。また、キンボール長老によって捧げられた奉献の祈りにも触れ、感謝を示した。その中でキンボール長老は、人々の間で自由に、妨げられることなく、何の制限も受けずに、伝道が行なわれるよう祈り求めたのであった。

「私たちは再び同じ祈りを捧げ、その祝福がこの国と周辺の国々に注がれるように願いました。」

ネルソン長老は、国の奉献に続いて注目すべき出来事があると、短い話の

中で述べた。

「教義と聖約に『何人にも汝の祝福する者はわれこれを祝福〔す〕』と記されています」とネルソン長老は教義と聖約第132章47節を引用した。

「十二使徒たちによる奉献の祈りに引き続いて、東欧では確かに驚くべき事柄が起っています。かつてそれらの国々では教会は歓迎されず、どこにも組織を設けることができませんでした。が、奉献の祈りに引き続き、伝道部が組織され、伝道活動に対する承認が得られ、現在そのみ業が推し進められています。」

このグアテマラには異なった試練があります。しかしこのたびの奉献の祈りに引き続き、必ずこの国とここに住む人々は祝福を受けるでしょう。」

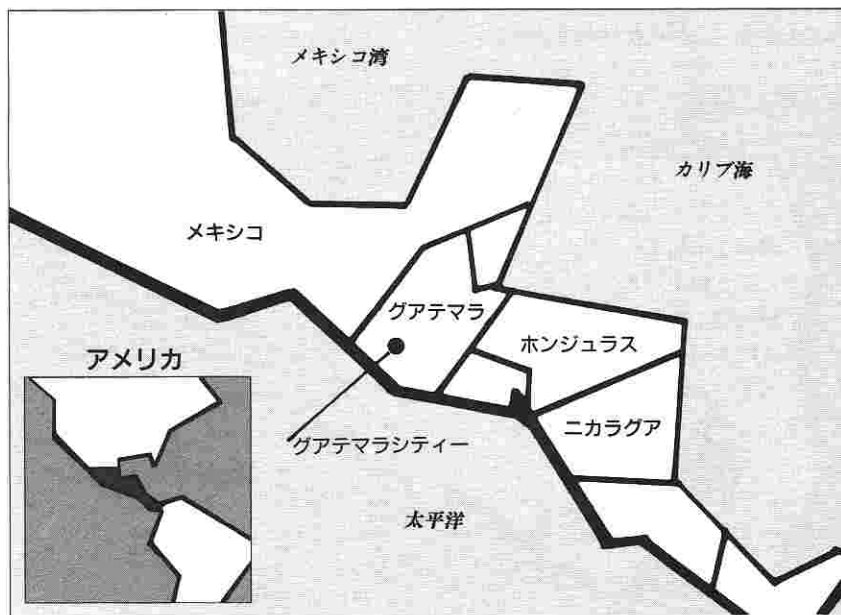
ブルーアートン長老はグアテマラは今年奉献された国の中では3番目であると述べた。6月1日にホンジュラス、8月25日にはパナマが奉献されている。それ以前には、エルサルバドルとニカラグアが奉献されている。

地域会長会第一副会長であり、グアテマラシティ出身のアマゾー長老は目に涙を浮かべて、この奉献がいかに感動的なものであったかを述べた。アマゾー長老は、この地で福音を宣べ伝えた多くの宣教師を含む、グアテマラの人々を代表して感謝を述べた。アマゾー長老は、現在中央アメリカでは47のステーキ部が25万人の教会会員を擁しているが、そのうちの12万5,000人がグアテマラに住み、国内のステーキ部数は22に上っていると語っている。

地域会長会第二副会長のロハス長老は、英語を理解しない人々のために奉献の祈りを通訳した。

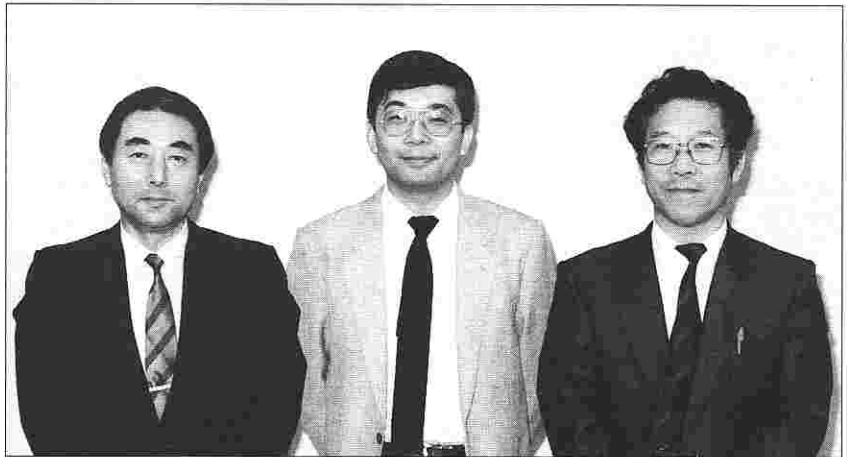
奉献の儀式が終わると直ちに、アシュトン長老とネルソン長老は地域大会の開かれるケサルテナンゴへ向かった。ケサルテナンゴのサロンデフェリアで開かれた大会には、約6,000人の会員が出席した。

翌日、グアテマラのアンティグアで地域会長会と中央アメリカの11組の伝道部長夫妻のために、伝道部長セミナーが開かれた。「チャーチニュース」1991年11月2日付



新たに組織された富山地方部

昨年9月、名古屋伝道部のウォルター・L・エイムズ伝道部長管理の下で開催された北陸地方部大会において地方部の分割が支持され、新たに富山地方部が組織されました。地方部長には荻原洋兄弟(写真中央)、第一副地方部長には吉村亨兄弟(写真左)、第二副地方部長には小林和夫兄弟(写真右)が召され、その任に当たります。



恵みが注がれました

富山地方部
地方部長
荻原 洋

1年ほど前、支部長としてバプテスマ会を管理していた時のことです。私は会員になって初めてと言っていいほどの強いみたまの訪れを受けました。普段と変わらないバプテスマ会だったのですが、始まってすぐに突然強い力に全身が押さえつけられ、自分でも信じられませんでした。10分くらいの間、下を向いたままじっと座っているだけで自然と涙が出、神様に感謝する気持ちでいっぱいになりました。なぜ突然そのようなようになったのか、その時はまったくわかりませんでした。後になってそれが神様からのプレゼントであったのだと思うようになりました。

そのころはまだ支部長に召されて数カ月で、張り切っていましたし、自分なりに一生懸命務めを果たそうと頑張っていた時でした。キンボール大管長は言われました。「神は熱心な働きに対して恵みを注いでくださるのです。時々あることですが、時間と労力を惜しむと、みたまの働きかけが感じられ



左——荻原洋地方部長とご家族

なくなることがあります。」(「スパンサー・W・キンボールの教え」エドワード・L・キンボール編, p.177)私にはあの時の経験がまさにこのことであり、神様がまだまだ信仰の弱い私を励ましてくださって、これからも続けてこの教会に集っていけるようにしてくださったのだ、と思えるのです。

エイムズ伝道部長から「あなたが初代富山地方部長に召されました」と言われた時には、とてもびっくりして、私などでいいのだろうか、とも思いましたが、この教会の様々な召しは確かに神様からの召しであるという証がありましたので、伝道部長のお言葉に従いました。

実際に召されてみると、神様がそのための道を備えてくださっていたことがよくわかります。11年前に仙台でバプテスマを受け教会員になった当時、監督をはじめ大勢の兄弟姉妹のすばらしい模範を間近に見ることができたことや、転勤で富山へ移って、北陸各地の信仰のあつい人々に接し、たくさんのことを教えていただいたことなど、どれも忘れられない経験です。特に、私の所属する富山支部の兄弟姉妹、北陸地方部長会、名古屋伝道部長会の方々には常に最高の模範でした。そして今は、敬愛するふたりの副地方部長をはじめ、地方部や支部にそれぞれすばらしい指導者の方々がいってくださいます。

何事においても基礎を固めるか否かが将来の発展を左右する鍵となります。これからも努力を惜しまず働くことによって自らを清め、この地に住む人々に神様の祝福を携えて行く器となれるよう、以下の教えを心に掲げて頑張りたいと思います。「悪から全く清められるのでなければ、イエスの御名によって奇蹟を行える人はない。」(IIIコーファイ8:1)□

試練に直面する

三樹世津子姉妹(松山地方部松山支部所属)は、1984年に乳がんの手術を受けた。その後1989年12月、がんが肺、肋骨、胸骨に転移していることが判明。翌1990年1月と2月、2度の大手術を受け、50日間の入院生活を送った。

それから1年10カ月後の昨年10月22日にまた、がんが背骨に転移していると診断された三樹姉妹は、11月13日に以下の証を記し、再び3週間に及ぶ入院生活に入った。

三樹姉妹の生きる姿勢は多くの報道機関で取り上げられている。

感謝を神に捧げん

松山地方部松山支部
三樹世津子

人には自分の思うようにいかないことがひとつだけあるとわかりました。それは、自分の生命です。いのちは主のみ手の内にあったのだということをようやく理解し始めました。私が人生を計画して生きてきたのではなく、主の計画の下に私が生かされていたことを心から感じるようになりました。がんに侵されたことを「なぜ、私が?」とか、「これは神の試練」だとか、そんなことではなく、主の限らない愛ゆえに私を選ばれ、内面的に深く成長させてくださったと感じるようになったのです。残された命を精一杯生きる、これが私のこの世での最後の務めなのでしょう。たとえ、短い生涯を終えることになったとしても悲しまないでねと、3人の娘たちにも伝えたい。そして、神様は不公平だなどと思わないでほしいのです。

今、7つの光景が私の脳裏を去来しています。ひとつめは、26歳のとき、自分は何者なのだろうと悩み、傷つきの教会を探して歩いていたとき、ふたりのアメリカ人宣教師に会ったこと。ふたつめは、それから1カ月後の1971年1月5日にバプテスマを受けたこと。世界は私を中心に動いているかのような錯覚にとらわれてしまうほどの、歓喜を味わいました。

3つめは、結婚はしないと決めていた私に、主は三樹敏憲兄弟との出会いを用意してくださり、1974年にハワイ神殿で永遠の結び固めを受けたこと。

4つめ、結婚した若く未熟な私たちを

待ち受けていたのは、教会での多くの奉仕でした。神様の目から見たら、あなたはまだまだでしたと言われそうですが、振り返ってみると、すべての体力と時間、思いと労力を主のために捧げてきたと思います。私が病気になって、当時お世話をした兄弟姉妹から感謝の手紙が届きました。でも、最も学ばせていただいたのは、私自身であり私たち家族だったのです。つらかったことや悲しかったこと、苦しかったこと、それは主への信仰ゆえに私が貫き通した証だったのです。それよりも、欠点や未熟さの目立つ私を寛容に見守ってくださった、愛する兄弟姉妹に心からお礼を申しあげます。

5つめ、それは、いまだ見ぬ父の祖国を42歳にして初めて訪ね、日本人として初めてソウル神殿で先祖のために身代わりのバプテスマを受けたことです。私は何者だったのか、42年間の人

生の原点がここにあったのだと、韓国の地にしっかりと立って悟ったのです。私は愛する先祖や亡き父と来世で共にまみえるのです。

6つめ、私の魂の故郷、松山支部。20年間の借家住まいの歴史は、私の20年間の苦難と祝福に満ちた信仰生活そのものでもありました。1990年、がんの転移で2回の大手術を受けて苦痛と闘っていたとき、生きて新しい教会堂を見ることができたらどうかと考えました。神様はその望みをかなえてくださいました。1991年5月にすばらしい教会堂が完成しました。私は清掃担当者として働きたいと支部長に伝えました。10月にまた、がんが背骨に転移していることがわかって、再入院しなければならなくなるまでの3カ月間、教会堂の清掃を心を込めてしました。

7つめは、3人の娘たちが自由意志によって、道徳的に清い生活を守り、福音を宣べ伝え、私が夫と出会ったように、愛する兄弟に恵まれること。主が娘たちを祝福してくださるように願っています。

私はこの教会に主が導きたもうたことを心から感謝するとともに、主がみこころのままになされんことを、願わくば、激痛に耐えられる心の平安をくださるよう、切に祈り、証申しあげます。(みつぎ・せつこ 扶助協会教師)



最初の転移を知らされた日から約1年間つづった日記「一年ののち」(創風社出版)の出版を祝う会に出席した三樹世津子姉妹(左から2番目)とご家族。1991年10月26日に松山市内のホテルで開催されたこの会には、140人が出席した。

新教会堂の 紹介

鉄骨造2階建 建築面積：184.10㎡
 延床面積：348.55㎡ 敷地面積：661.15㎡
 所在地：鹿児島県鹿児島市東谷山3丁目26-16
 ☎0992-68-4861



富山地方部富山支部
 (1991年7月25日完成)



木造平家建
 建築面積：285.00㎡
 延床面積：283.01㎡
 敷地面積：2,298.71㎡
 所在地：
 富山県富山市呉羽富田町7357
 ☎0764-36-2913

木造平家建
 建築面積：284.34㎡
 延床面積：283.01㎡
 敷地面積：910.50㎡
 所在地：
 愛媛県松山市北久米町1097-1
 ☎0899-56-1063



12月に召された専任宣教師 第150期生 6人



後列左から1-4, 前列左から5-6

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 前田 浩幸	沖縄那覇 S / 普天間 W	仙台伝道部
2. 柴原 宏幸	静岡 S / 静岡 W	沖縄伝道部
3. 鈴木 一	東京西 S / 甲府 W	大阪伝道部
4. 野田 勝	名古屋西 S / 御器所 W	大阪伝道部
5. 上江洲いずみ	沖縄那覇 S / 首里 W	神戸伝道部
6. 庭前 操	高崎 S / 高崎東 W	神戸伝道部

S: ステーキ部, D: 地方部, W: ワード部, B: 支部

編集室から

皆さんの原稿を 募集しています

▶ ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など)、本誌を読まれての感想文などをお送りください。

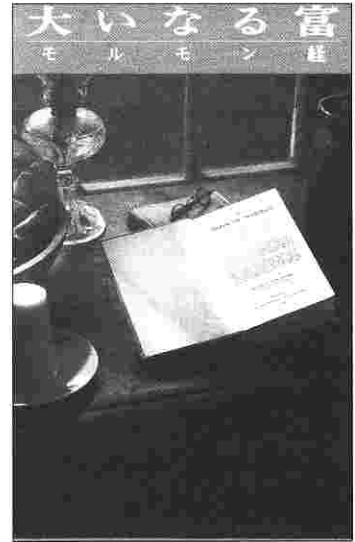
▶ これまでローカルページでは証の著者の生年を記載しておりましたが、今

後は記載しないことになりました。ただし編集作業の参考のため、投稿の際には従来どおり連絡先(電話番号)、教会での責任(役職名)に併せ、生年を記入してお送りください。

▶ お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。

▶ あて先: 〒150 東京都渋谷区桜丘町28-8 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室
☎03(5489)9251

新刊ビデオの 紹介



● 「大いなる富: モルモン経」
VHS ビデオカセット
ITEM 53285 300 60分 1,500円

このビデオは、モルモン経の起源と、それが世に現われるまでの経緯を示すとともに、ふたりの人物(パーレー・P・ブラット、ドン・ビンチェンツォ・デ・フランチェスカ)の実際の体験を基に、彼らがモルモン経の偉大な価値を理解するに至るまでの物語を伝えている。教会員であるなしを問わず、モルモン経を一層深く学ぶための動機づけを与えてくれる。(フランチェスカ兄弟の改宗の物語は、『私にはその本を焼くことはできません』『聖徒の道』1988年7月号, pp.14-18に紹介されている)

● 「メルキゼデク神権を機能させる」
VHS ビデオカセット
ITEM 53034 300 71分 2,000円

「メルキゼデク神権指導者手引き」(31184 300)を補足するもの。メルキゼデク神権者の訓練用資料として、ステーキ部/ワード部/定員会それぞれのレベルで使用できる。

祈り

アジア北地域会長会第二副会長
サム・K・島袋

イエスは、導きと恵みを施されたわずか3年の間に、多くの偉大な教えを残されました。天父に祈ることの必要性和重要性もそのひとつです。祈りは確かにすべての人に開かれたすばらしい機会と言えます。永遠の父なる神と自由に話すことができるからです。昼夜を問わず、いつ祈っても、また何度祈っても費用はかかりません。「祈り中毒」になって、知恵の言葉や主のほかの戒めを破っているのではないかと考えたり、自由意志の使い方を間違っているのではないかと思ったりする必要はありません。天父は私たちに、祈りを通して絶えずご自身を呼び求めるように望んでおられるからです。祈りによって私たちが天父に近づくならば、天父も私たちに近づいてくださるのです。(教義と聖約88：63参照)

祈りは、一方通行の袋小路のようにむなしなものだと考えている人がいたら、私たちの主、イエス・キリストに心を向けてみてください。きっとそのような疑いは無用で、また消し去るべきものだという確信が得られるでしょう。

次のような場面におられるイエスを心に描きながら、畏敬の念を抱き、心が高められない人がいるでしょうか。

弟子と、すべての人に祈りの方法を教えておられるイエス。(マタイ6：6—9参照)

ただひとり、天父に祈るために山へ登られるイエス。(マタイ14：23参照)

信仰を持って祈り求めるものはすべて与えられると教えておられるイエス。(マタイ21：22参照)

何事でもご自身の名によって願うな



らば、それをかなえてくださると訓戒を与えておられるイエス。(ヨハネ14：14参照)

サタン誘惑に遭っても信仰を失わないようにと、ペテロのために祈っておられるイエス。(ルカ22：32参照)

十字架にかかる前に、天父の助けを祈り求めながらも、自分の思いのままではなく、みこころのままになるようにと願っておられるイエス。(マタイ26：39参照)

ご自身が御父の内におられるのと同様に、皆がひとつになれるようにという願いから、ご自分に従うすべての人々のために祈りと、とりなしをされるイエス。(ヨハネ17：20—21参照)

このほかにも数多くの聖句から、祈りが、主イエス・キリストの生涯と使命の重要な要素であったことがはっきりとわかります。もし、祈りがキリストにとって毎日の習慣であったとすれば、主とは違って不完全で、天からの助けととりなしを必要とする私たちが、その模範に従うのは、なおさら重要なことです。

祈りについてイエスが教え、示してくださいましたことについて考えるとき、以下の事柄にも心を向ける必要があります。

自らも絶えず祈り、同様に子供やそのほかの人にも実践するよう教える。

時折、神と自分だけになれる時間を持ち、ひそかな祈りを捧げる。

私たちの祈りが、イエス・キリストのみ名による信仰の祈りとなるように謙遜になる。

信仰が弱まっている人や、終わりまで耐え忍ぶうえで主の助けを必要としている人のために祈る。

病や痛み苦しむ人のために、苦しみと和らげられるように祈る。しかし、それは主のみこころのままになされるということを常に心に留める。

私たちが主とひとつになれるように、すなわち私たちの心と思い、目標がひとつとなって主に向けられるように祈る。

祈りは、私たちが時間や努力を傾けるべき、最も価値のある、そして心をも満たしてくれる投資と言えます。そして、この投資事業の相手はまことに信頼できるお方であり、投資をするたびに、つまり祈りを捧げるたびに、確実に、高い配当とも言うべき祝福をもたらしてくださるのです。

祈りの気持ちと固い決意をもって、主が与えてくださった次の訓戒に従いましょう。「すなわち、汝らが見たるわが行いを汝らもせよ。」(IIIニーマイ27：21)私たちが主の賢い僕となり、イエスが授けられた美しい教えのとおり、天父に祈ることができるように願っています。□

新教会堂の 紹介

鉄骨造 2階建 建築面積：184.10㎡
 延床面積：348.55㎡ 敷地面積：661.15㎡
 所在地：鹿児島県鹿児島市東谷山3丁目26-16
 ☎0992-68-4861



木造平家建
 建築面積：285.00㎡
 延床面積：283.01㎡
 敷地面積：2,298.71㎡
 所在地：
 富山県富山市呉羽富田町7357
 ☎0764-36-2913

木造平家建
 建築面積：284.34㎡
 延床面積：283.01㎡
 敷地面積：910.50㎡
 所在地：
 愛媛県松山市北久米町1097-1
 ☎0899-56-1063



12月に召された専任宣教師

第150期生 6人



後列左から1-4, 前列左から5-6

(名前)	(出身地)	(伝道地)
1. 前田浩幸	沖縄那覇 S / 普天間 W	仙台伝道部
2. 柴原宏幸	静岡 S / 静岡 W	沖縄伝道部
3. 鈴木	東京西 S / 甲府 W	大阪伝道部
4. 野田勝	名古屋西 S / 御器所 W	大阪伝道部
5. 上江洲いずみ	沖縄那覇 S / 首里 W	神戸伝道部
6. 庭前操	高崎 S / 高崎東 W	神戸伝道部

S: スターキ部, D: 地方部, W: ワード部, B: 支部

編集室から

皆さんの原稿を
募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など)、本誌を読まれての感想文などをお送りください。

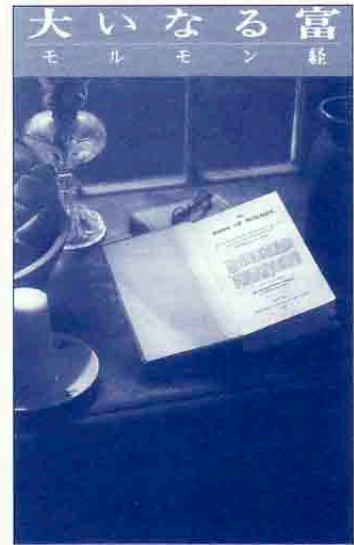
▶これまでローカルページでは証の著者の生年を記載しておりましたが、今

後は記載しないことになりました。ただし編集作業の参考のため、投稿の際には従来どおり連絡先(電話番号)、教会での責任(役職名)に併せ、生年を記入してお送りください。

▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。

▶あて先: 〒150 東京都渋谷区桜丘町28-8 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室

☎03(5489)9251

新刊ビデオの
紹介

●「大いなる富: モルモン経」
VHS ビデオカセット
ITEM 53285 300 60分 1,500円

このビデオは、モルモン経の起源と、それが世に現われるまでの経緯を示すとともに、ふたりの人物(パーレー・P・プラット, ドン・ビンチェンツォ・デ・フランチェスカ)の実際の体験を基に、彼らがモルモン経の偉大な価値を理解するに至るまでの物語を伝えている。教会員であるなしを問わず、モルモン経を一層深く学ぶための動機づけを与えてくれる。(フランチェスカ兄弟の改宗の物語は、『私にはその本を焼くことはできません』「聖徒の道」1988年7月号, pp.14-18に紹介されている)

●「メルキゼデク神権を機能させる」
VHS ビデオカセット
ITEM 53034 300 71分 2,000円

「メルキゼデク神権指導者手引き」(31184 300)を補足するもの。メルキゼデク神権者の訓練用資料として、スターキ部/ワード部/定員会それぞれのレベルで使用できる。